

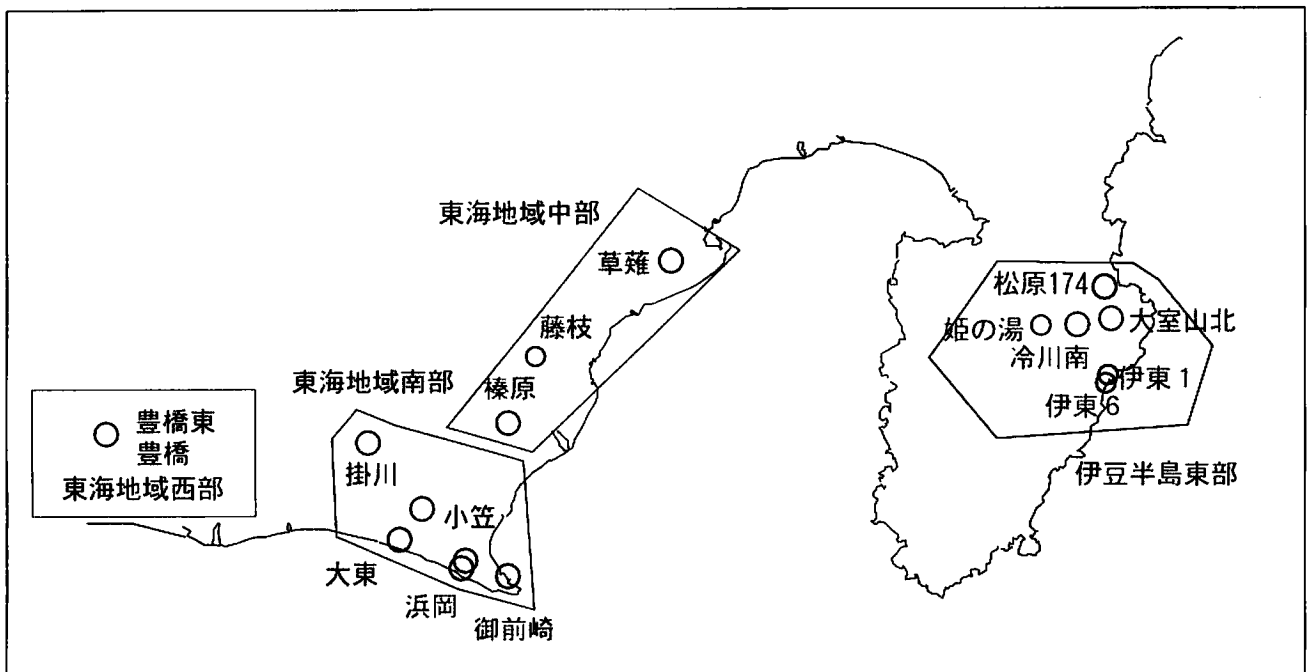
# 第240回

## 地震防災対策強化地域判定会 委員打合せ会

産業技術総合研究所

# 地質調査総合センター資料

産総研地質調査総合センター地下水観測井配置図  
(伊豆・東海地域テレメータ連続観測)



平成18年4月24日

# 【資料目次】

## 表紙

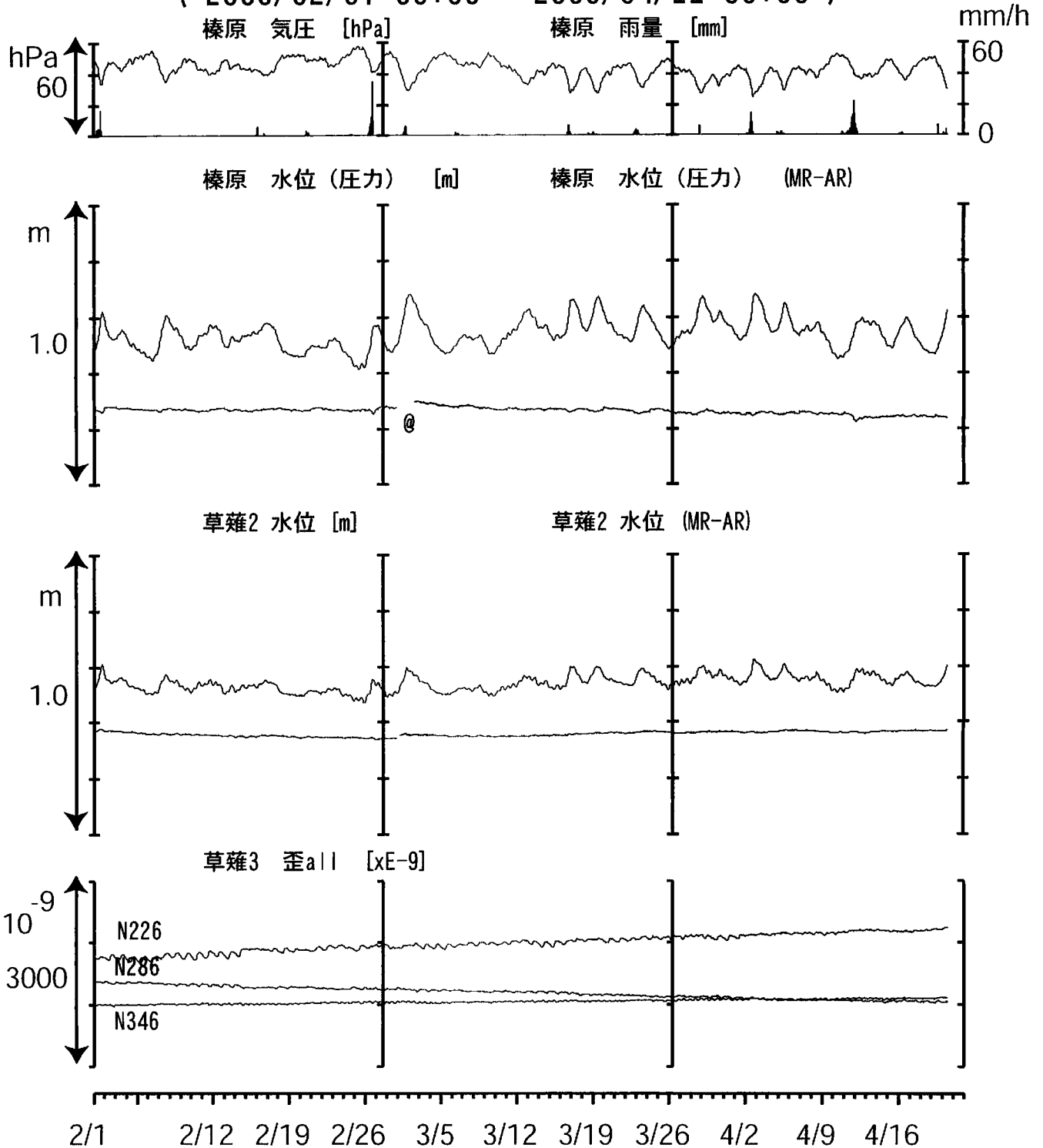
1. 東海地域中部(榛原, 草薙)地下水 3成分歪; 中期
- 1-b. 東海地域中部(草薙)3成分歪; 中期
2. 東海地域中部(榛原, 草薙)地下水 3成分歪; 長期
- 2-b. 東海地域中部(草薙)主歪解析; 長期
- 2-c. 東海地域中部(草薙)草薙歪計; 長期
3. 東海地域南部(大東, 小笠, 浜岡, 御前崎)地下水; 中期
4. 東海地域南部(大東, 小笠, 浜岡, 御前崎)地下水; 長期
- 4-b. 東海地域南部 浜岡地下水・沈下; 長期
- 4-c. 東海地域南部 掛川地下水・沈下; 長期
5. 東海地域西部(豊橋)地下水 3成分歪・傾斜; 中期
- 5-b. 東海地域西部(豊橋)3成分歪・傾斜; 中期
- 5-c. 東海地域西部(豊橋東)水位・傾斜; 中期
- 5-d. 東海地域西部(豊橋東)歪・磁力; 中期
- 5-e. 東海地域西部(豊橋東)主歪解析
6. 東海地域西部(豊橋)地下水 3成分歪 傾斜; 長期
- 6-b. 東海地域西部(豊橋)豊橋1:主歪解析
- 6-c. 東海地域西部(豊橋)豊橋1:主歪の時間変化
7. 伊豆半島東部(松原174, 大室山北, 冷川南, 伊東1, 伊東6)地下水; 中期
8. 伊豆半島東部(松原174, 大室山北, 冷川南, 伊東1, 伊東6)地下水; 長期
9. 関東地域(つくば1, 川崎)地下水; 中期
10. 関東地域(つくば1, 川崎)地下水; 長期

## 別紙

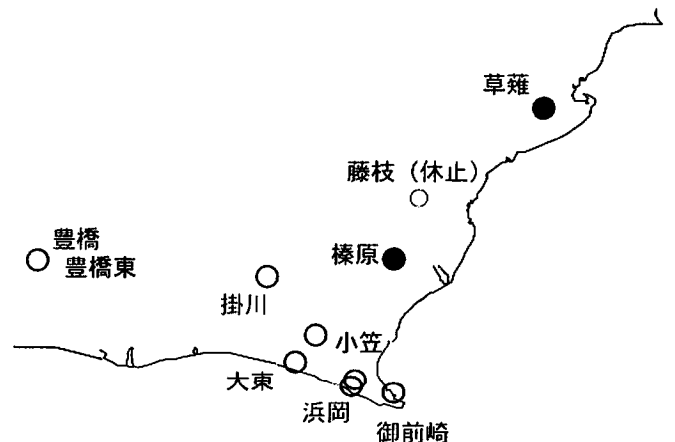
- ・伊東沖群発地震に伴う地下水変化
- ・浜岡・榛原の降雨グラフ

# 東海地域中部（榛原・草薙）中期（時間値）

( 2006/02/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )

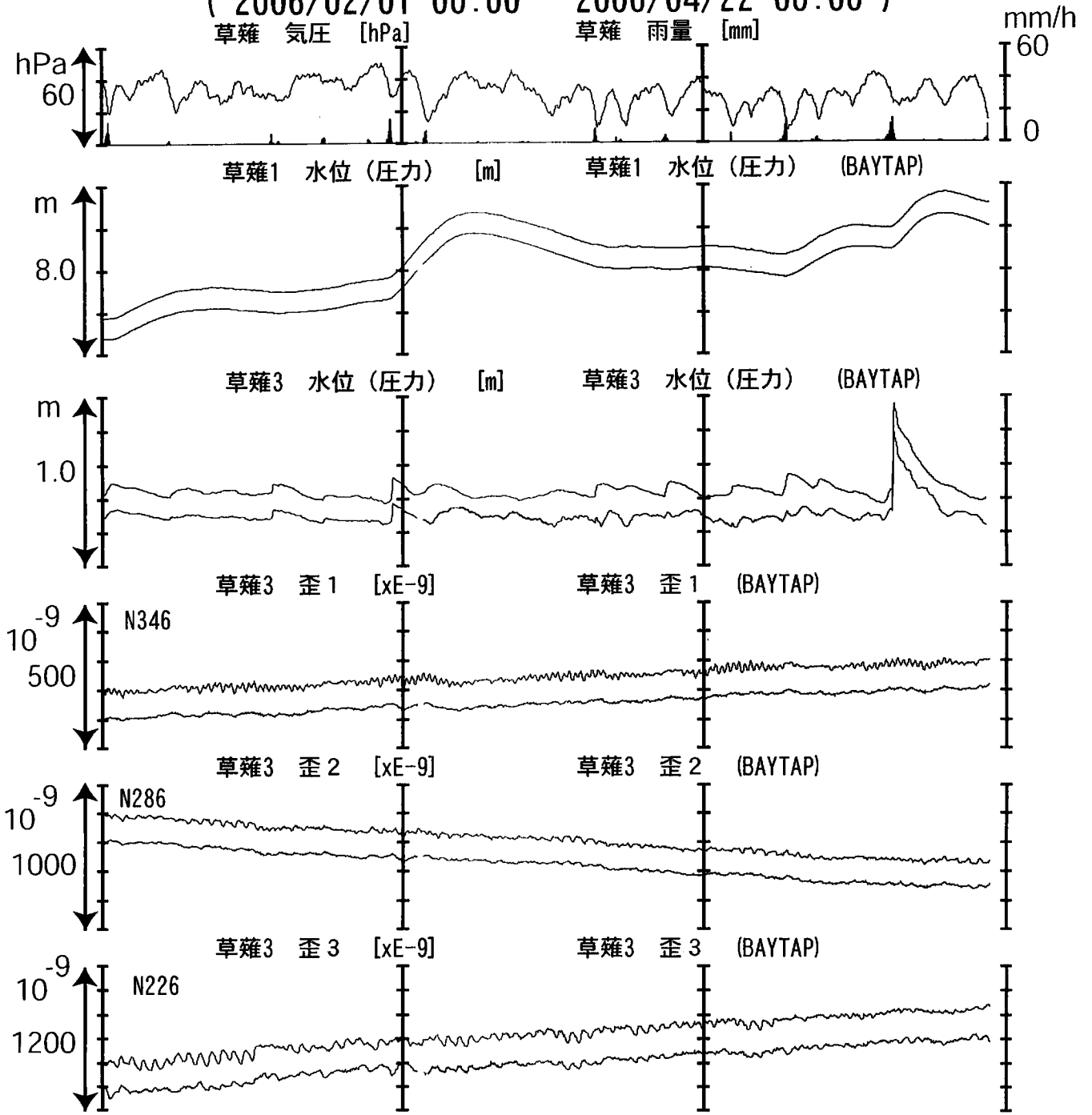


コメント：@:月初めの補正值のギャップは、  
解析プログラムの見かけ上のものである。  
2005年5月21日から静岡空港建設工事が  
再開しているが、今回は榛原観測井から  
離れている場所なので、水位には影響を  
与えていないように見える。



# 東海地域中部（草薙・歪）中期（時間値）

( 2006/02/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



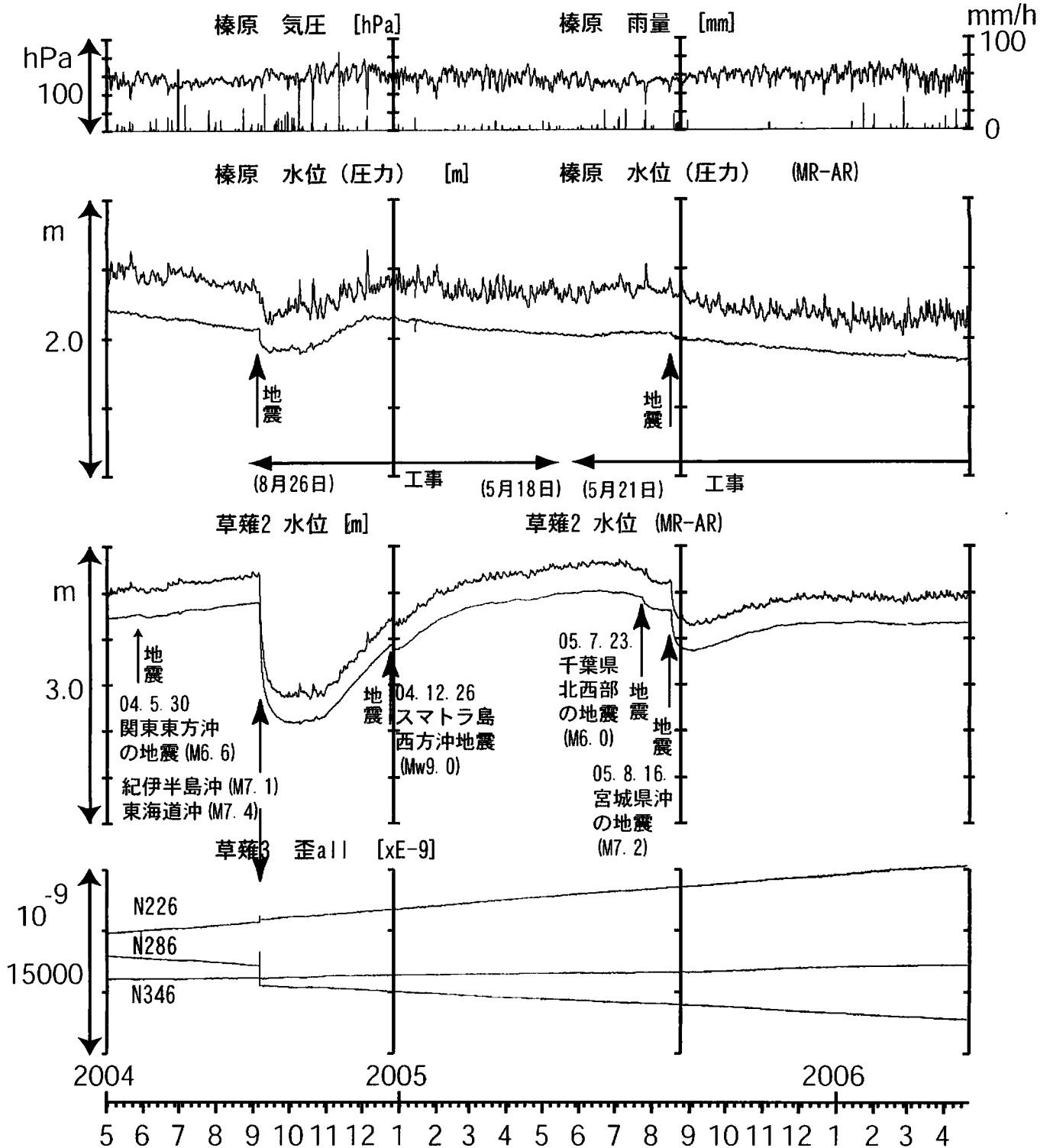
2/1      2/12 2/19 2/26    3/5 3/12 3/19 3/26    4/2 4/9 4/16

コメント :

草薙3の降雨に伴う水位変化は、  
孔口からの水の流入による可能性がある。



# 東海地域中部（榛原・草薙）長期（時間値） （2004/05/01 00:00 - 2006/04/22 00:00）

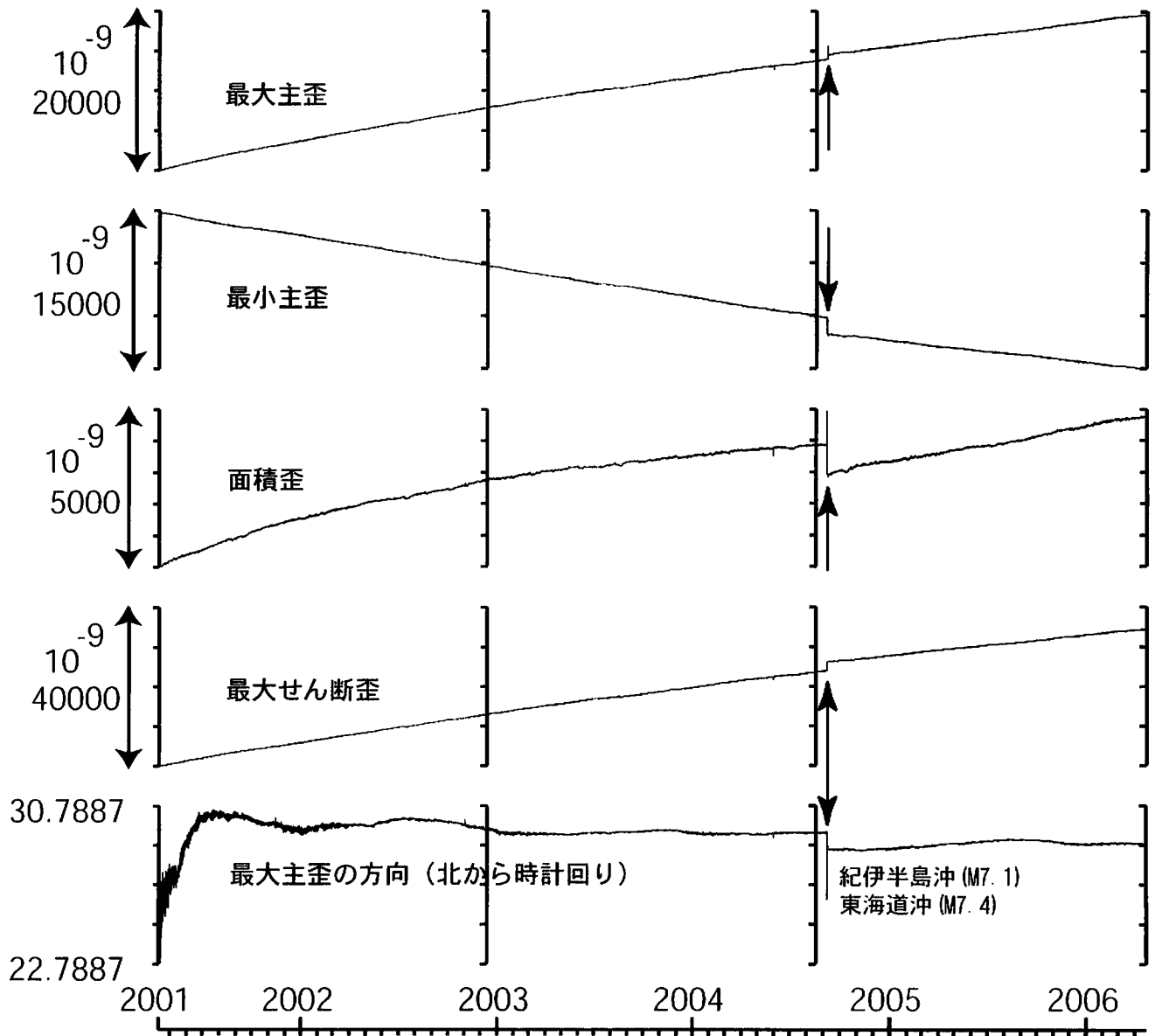


コメント：  
 静岡空港建設工事（2002年7月～2003年2月，  
 2003年5月～2004年3月，2004年8月末～2005年5月18日，  
 2005年5月21日～）が榛原で行われているが，  
 工事の場所が徐々に榛原観測点から離れて  
 いるので，水位への影響は小さくなっている。  
 榛原の雨量は2005年9月初旬～10月27日まで  
 雨量計内部の詰りのため正確な測定ではない。  
 同期間中の榛原の水位補正值（MR-AR）も  
 雨量補正が正確ではない。



# 草薙長期：主歪解析

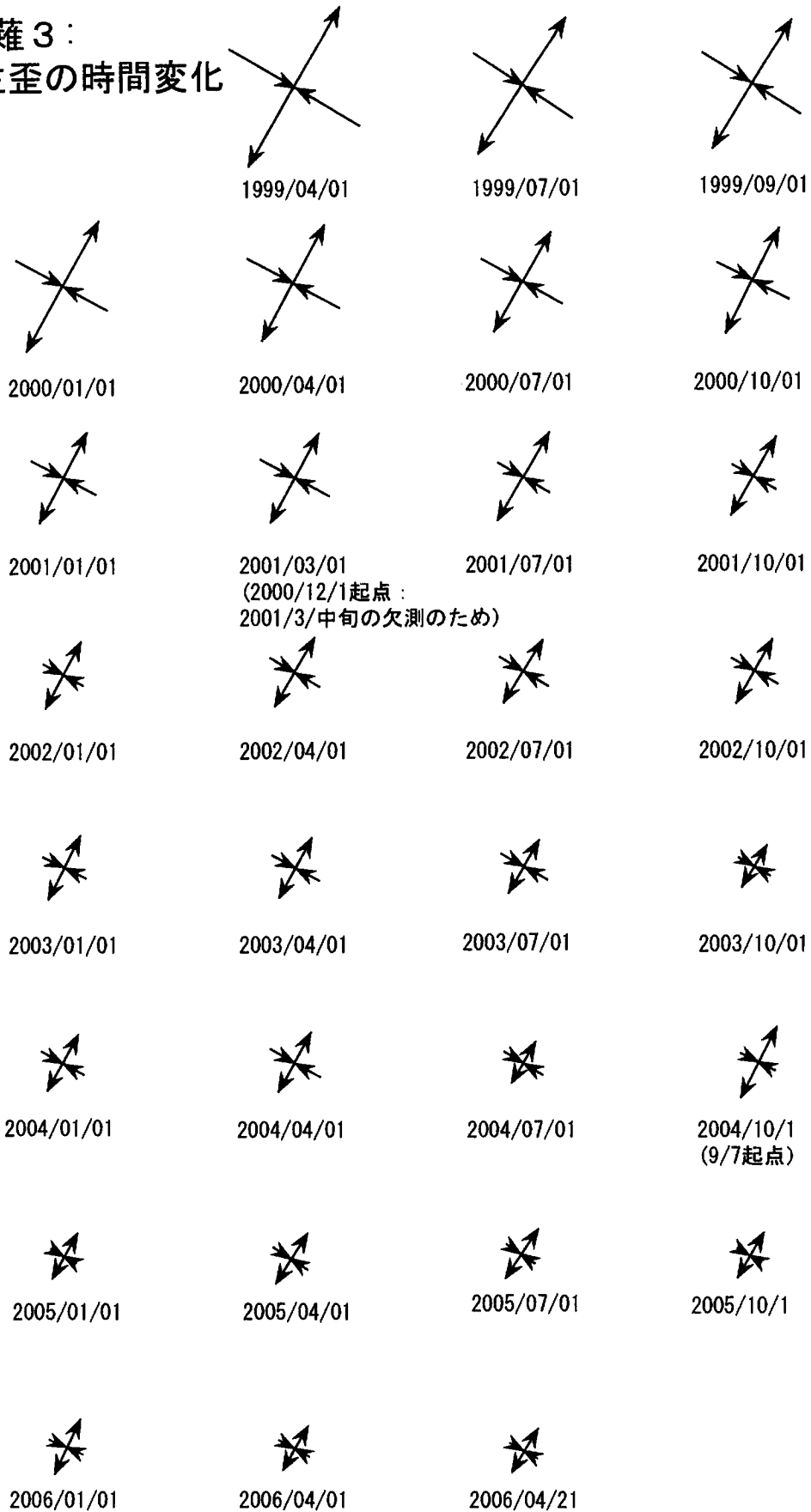
( 2001/04/10 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



コメント：主歪解析の起点は2001年4月5日



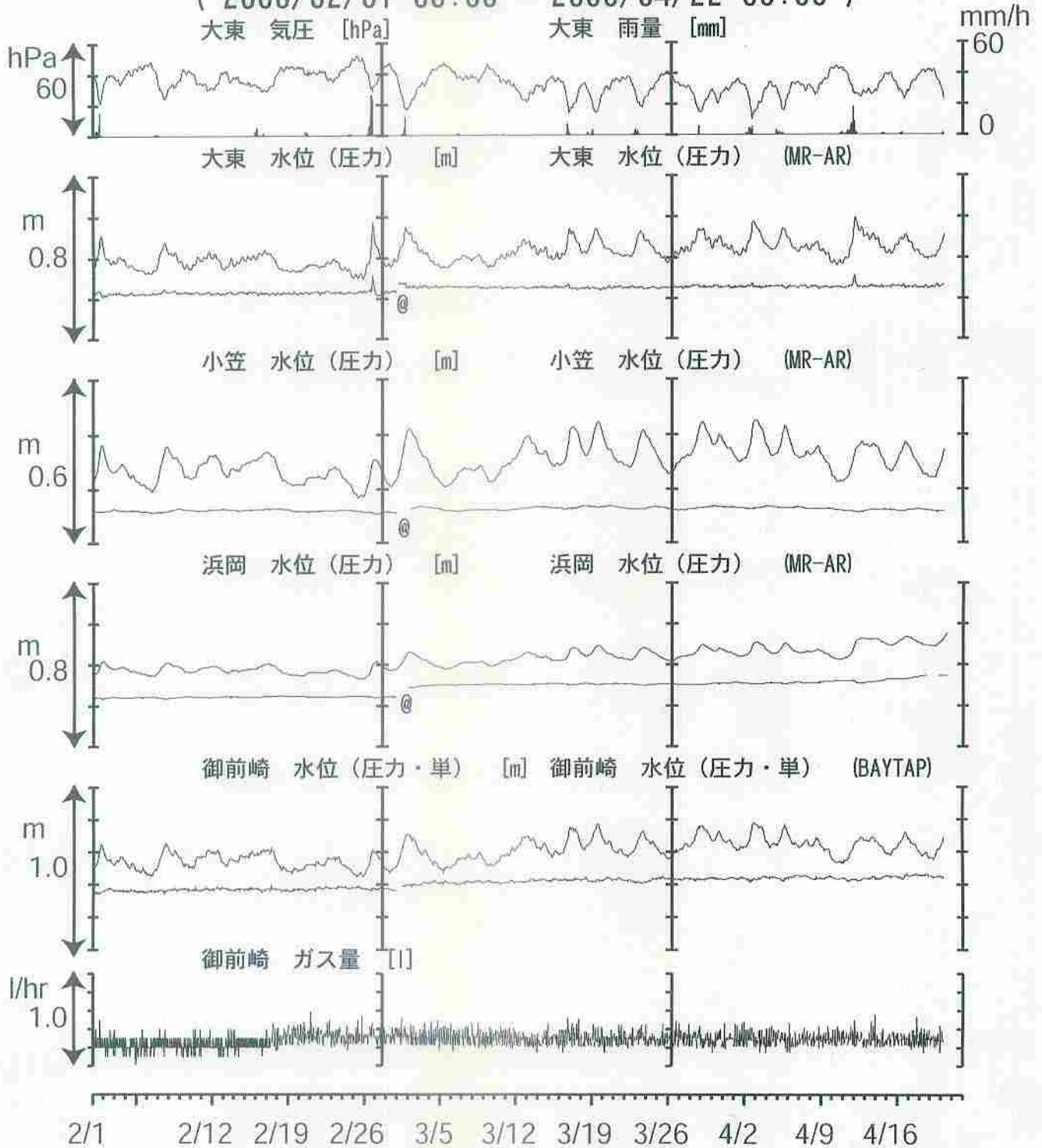
草薙3：  
主歪の時間変化



コメント：最新の分を除いて、各々3ヶ月前を起点として主歪解析を行った。  
2001/4/3静岡県中部の地震M5.1, 2004/9/5-6紀伊半島沖の地震による  
ステップは取り除いている

# 東海地域南部 地下水観測結果 中期 (時間値)

( 2006/02/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



コメント :

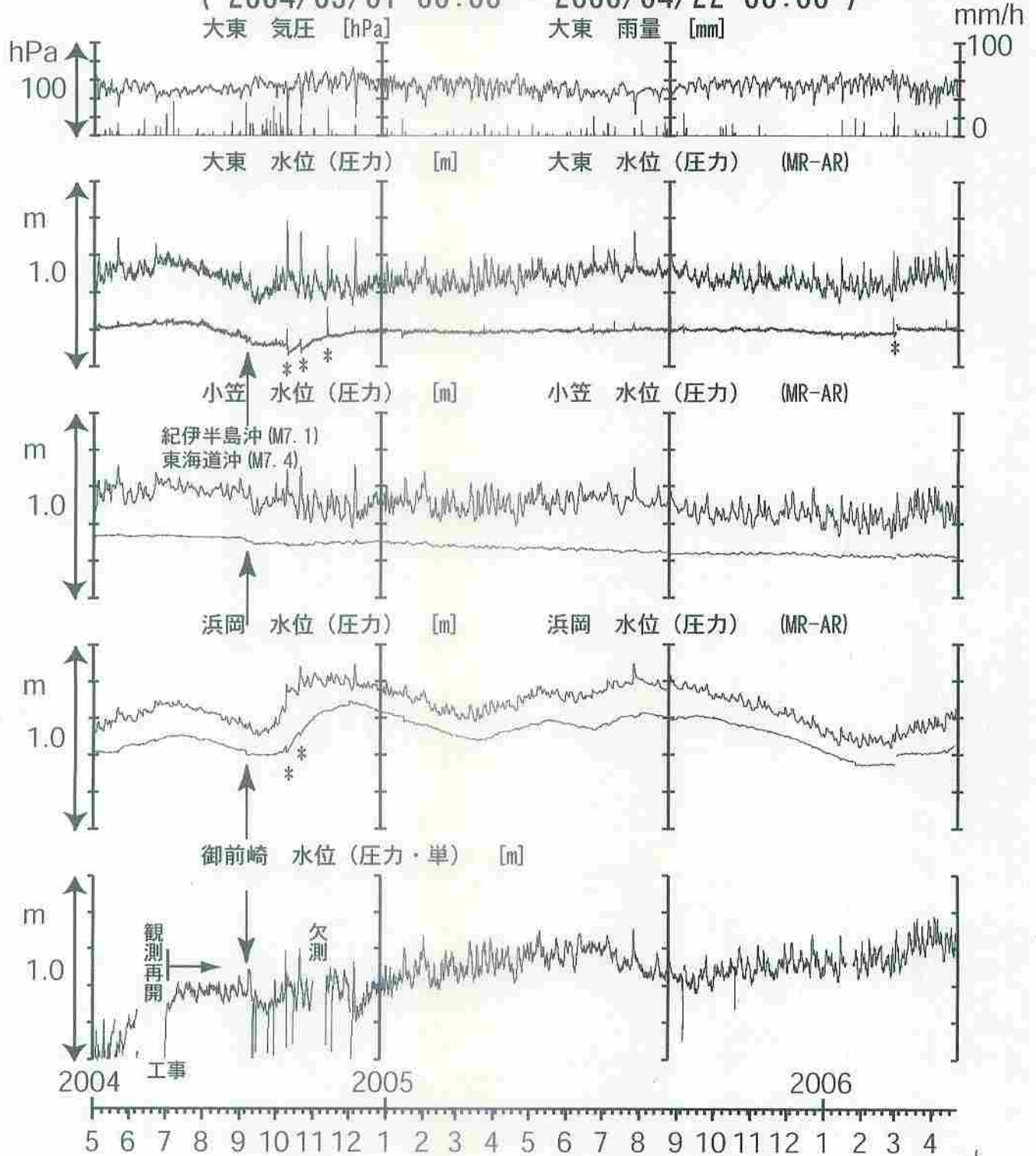
\*: 雨量補正不十分,  
 @: 月初めの補正値のギャップは,  
 解析プログラムの見かけ上のものである.  
 御前崎のガス量の測定システムを2月17日に  
 変更して測定分解能を向上させた.





# 東海地域南部 地下水観測結果 長期 (時間値)

( 2004/05/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



コメント:

\*:雨量補正不十分.

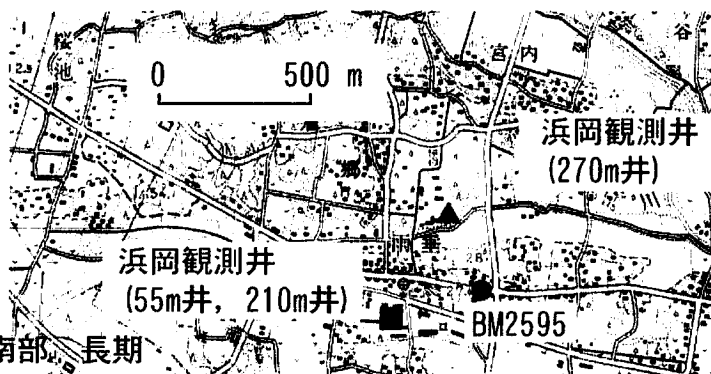
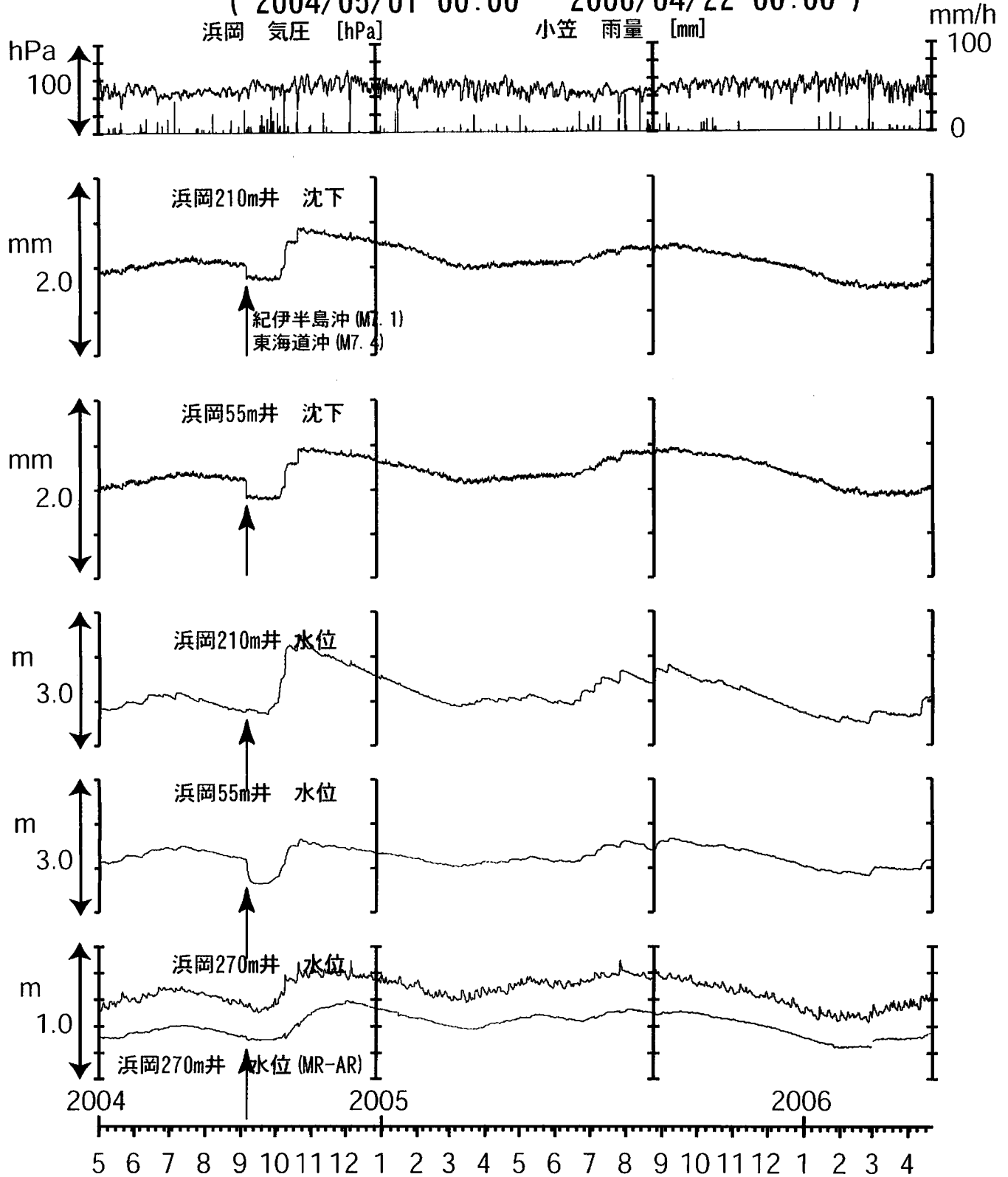
2004年6月初めまでの御前崎の水位異常は、配管からの圧力漏れによるものである.

2004年9月中旬以降、観測システムに不具合がありデータが乱れていたが、2004年12月初めに修理が完了した.



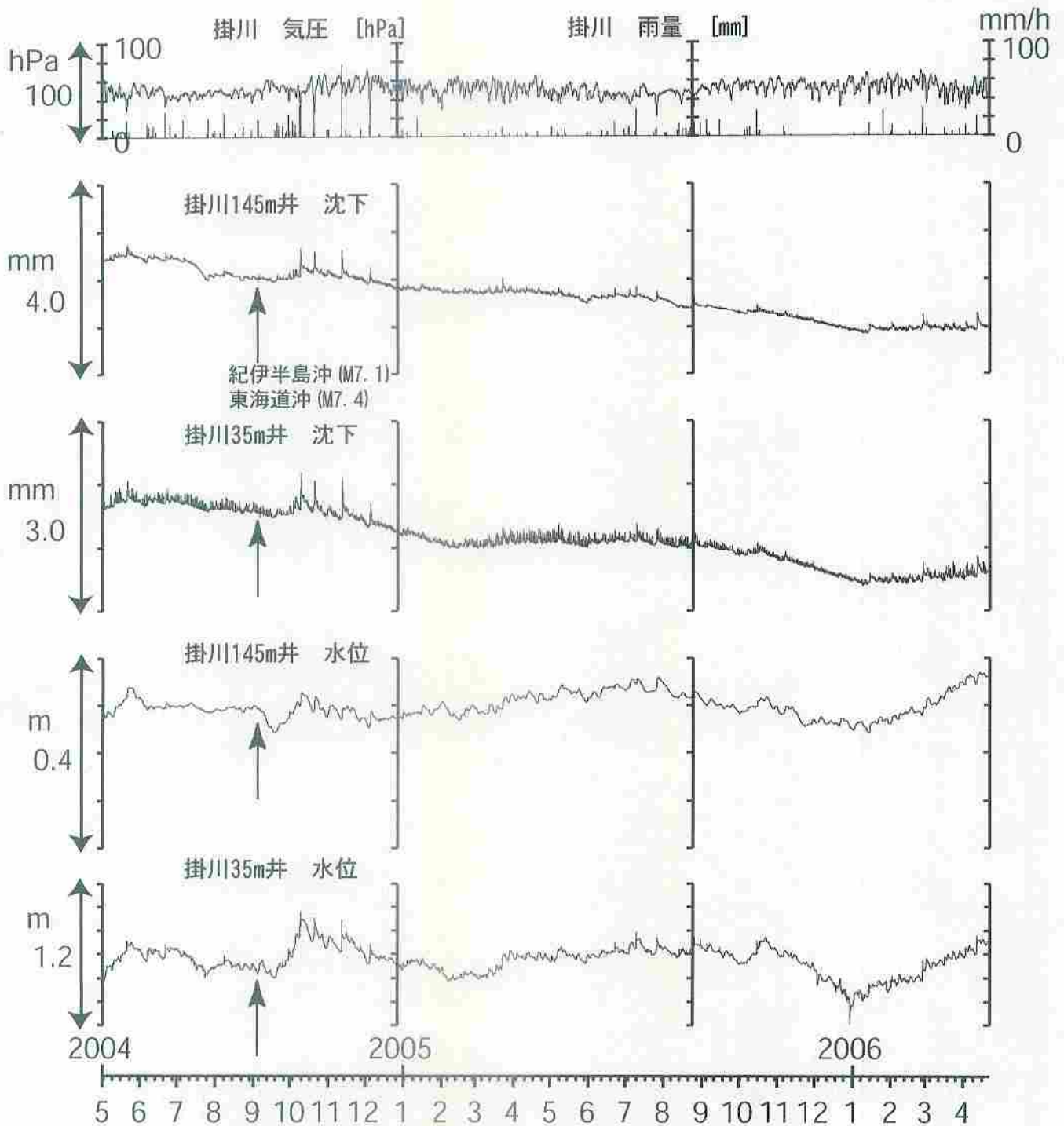
# 浜岡沈下・水位 (時間値)

( 2004/05/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



# 掛川沈下・水位 (時間値)

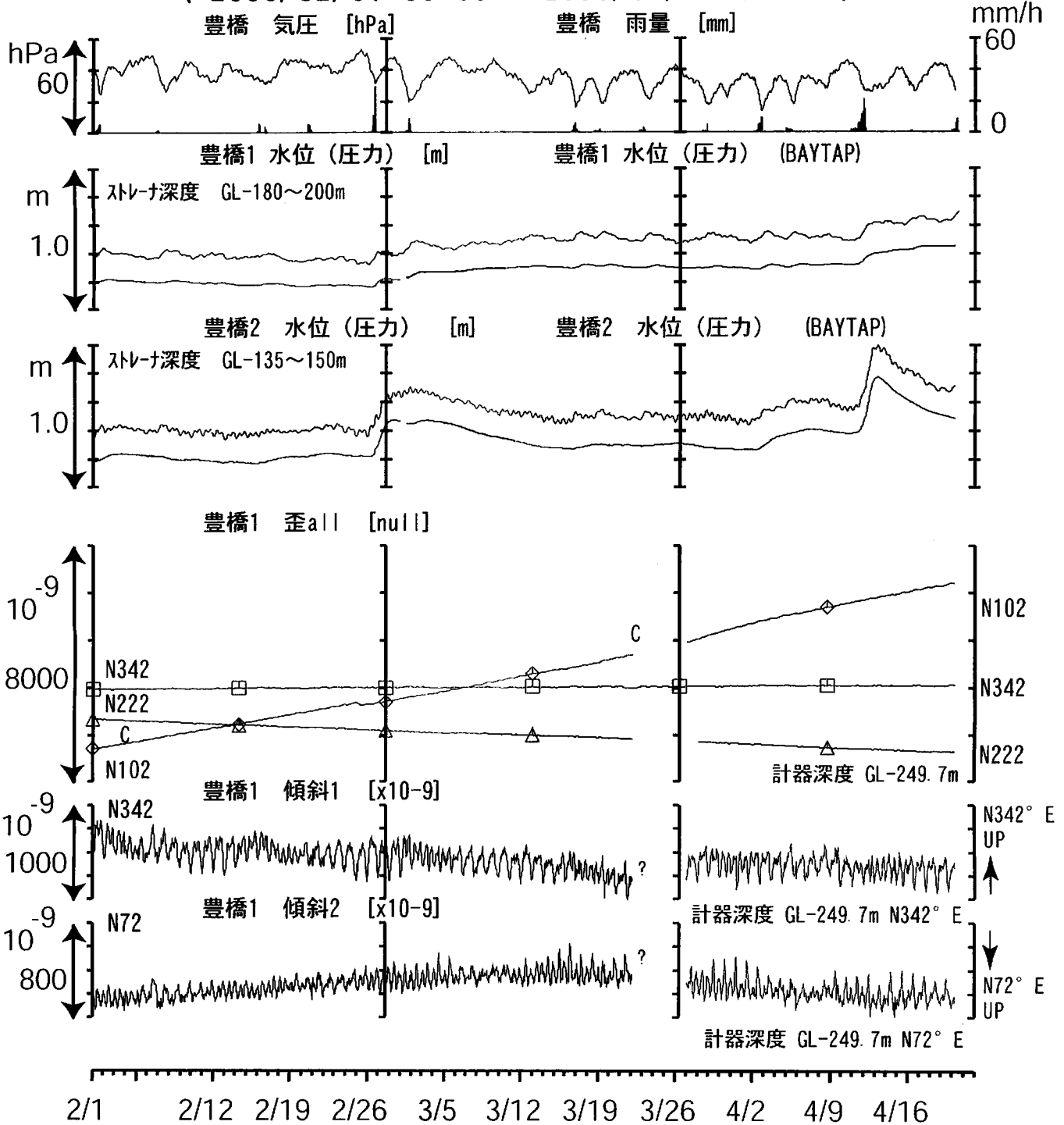
( 2004/05/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



0 500 m



# 東海地域西部（豊橋）中期（時間値） （2006/02/01 00:00 - 2006/04/22 00:00）

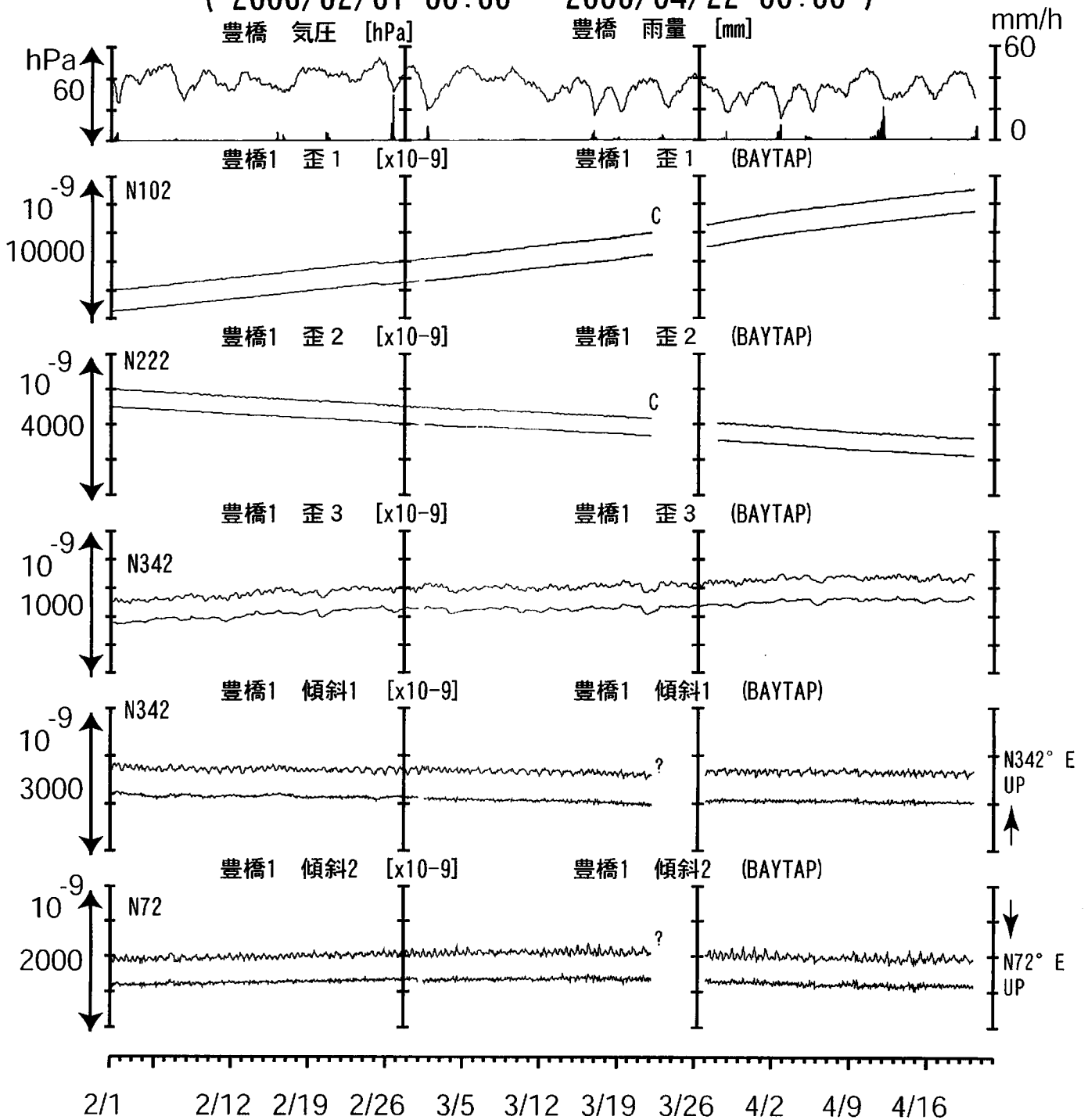


コメント：？；原因不明，

C: トンネル工事が原因と考えられるN102方向の急激な伸びで歪計近傍で微小破壊が生じることによる変化と推定できるもの（主歪解析結果と逆センスのステップ状変化にみえるもの。グラフ上ではステップを取り除いている。）。



# 東海地域西部（豊橋・歪）中期（時間値） （2006/02/01 00:00 - 2006/04/22 00:00）



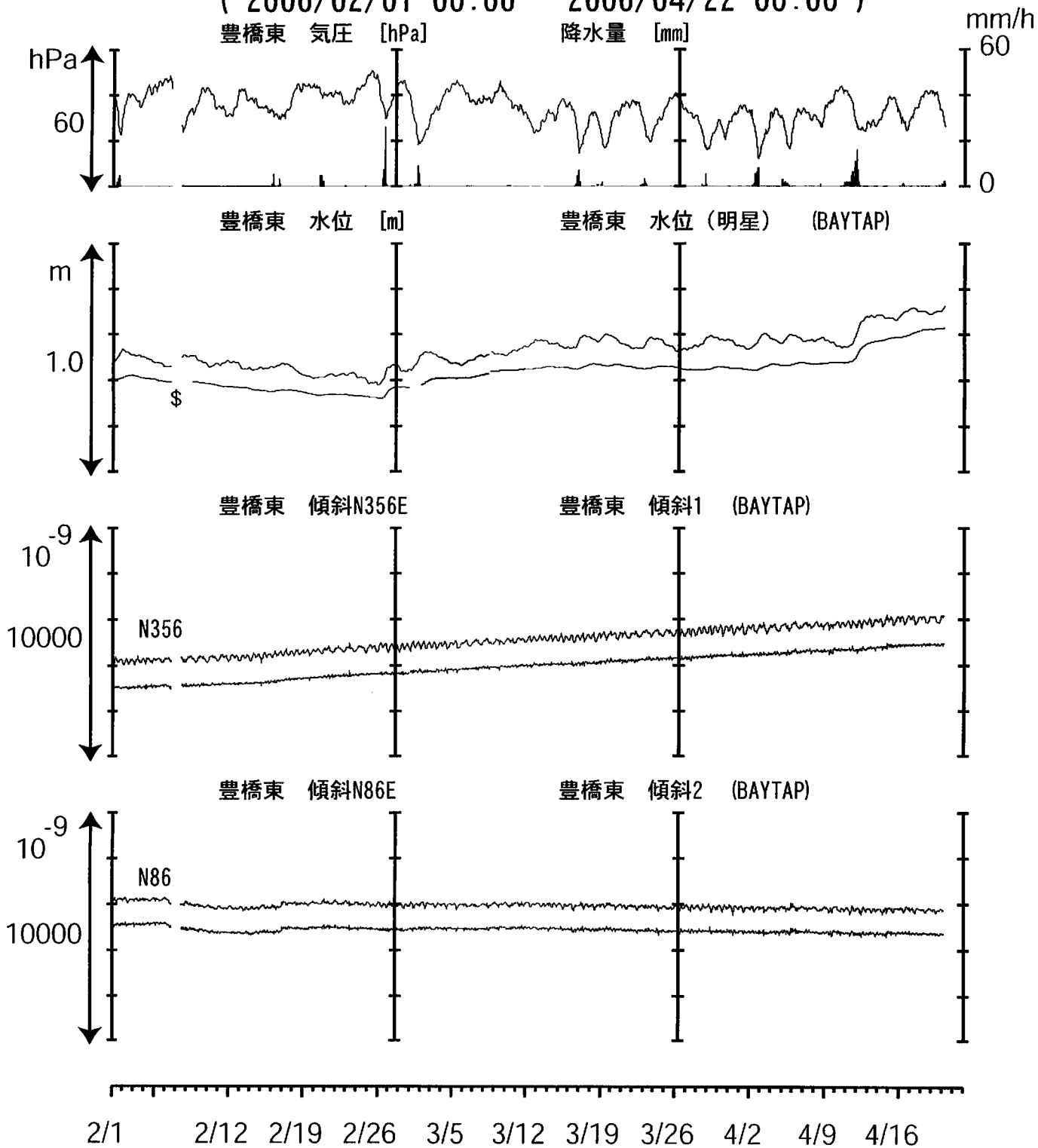
コメント：？；原因不明。

C: トンネル工事が原因と考えられるN102方向の急激な伸びで歪計近傍で微小破壊が生じることによる変化と推定できるもの（主歪解析結果と逆センスのステップ状変化にみえるもの。グラフ上ではステップを取り除いている。）。



# 東海地域西部（豊橋東）中期（時間値）

（2006/02/01 00:00 - 2006/04/22 00:00）

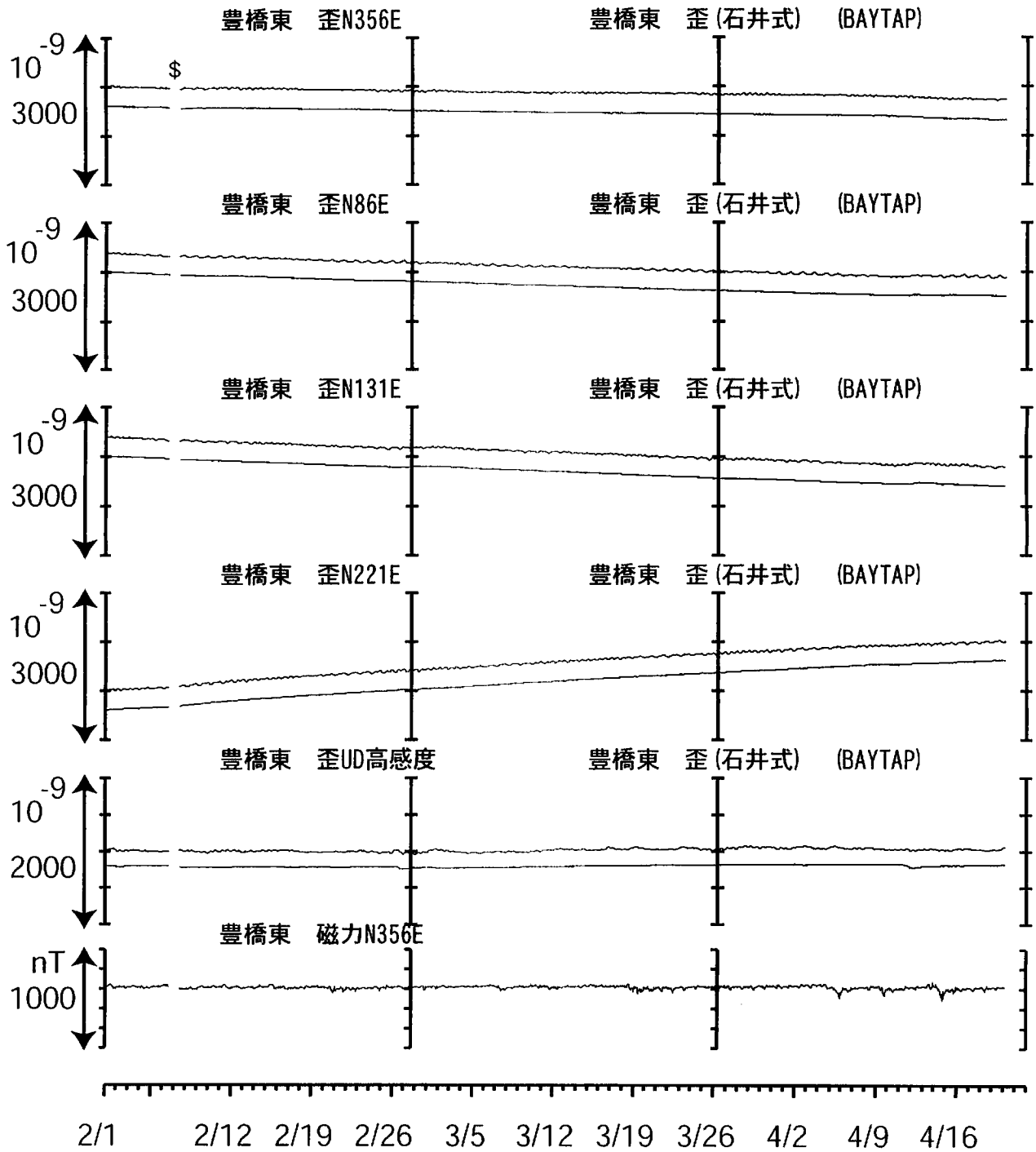


コメント：\$ ; 保守



# 東海地域西部（豊橋東）中期（時間値）

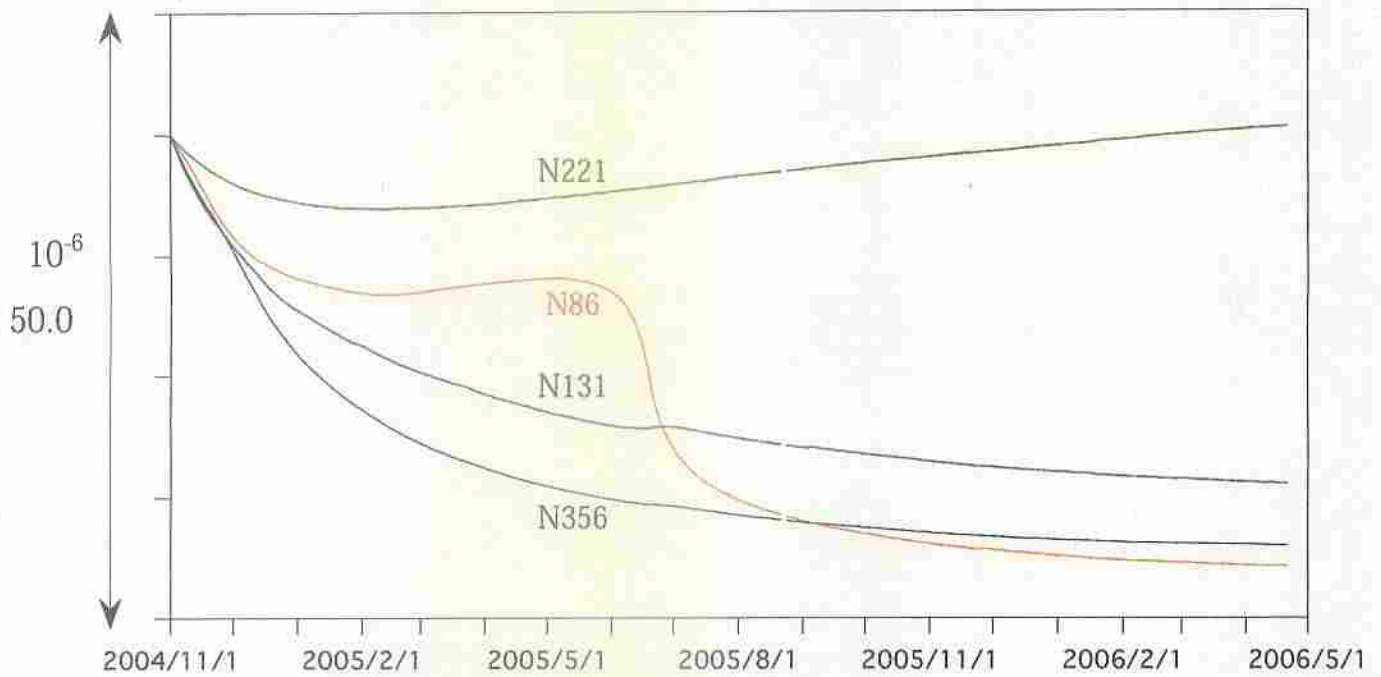
( 2006/02/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



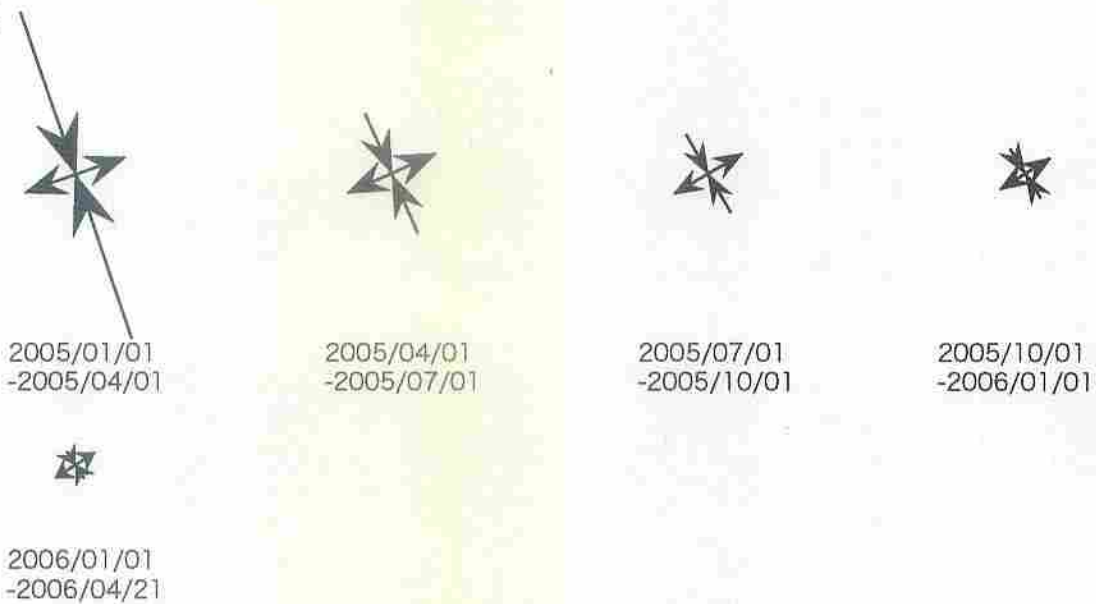
コメント：\$;保守.



# 豊橋東:主歪解析



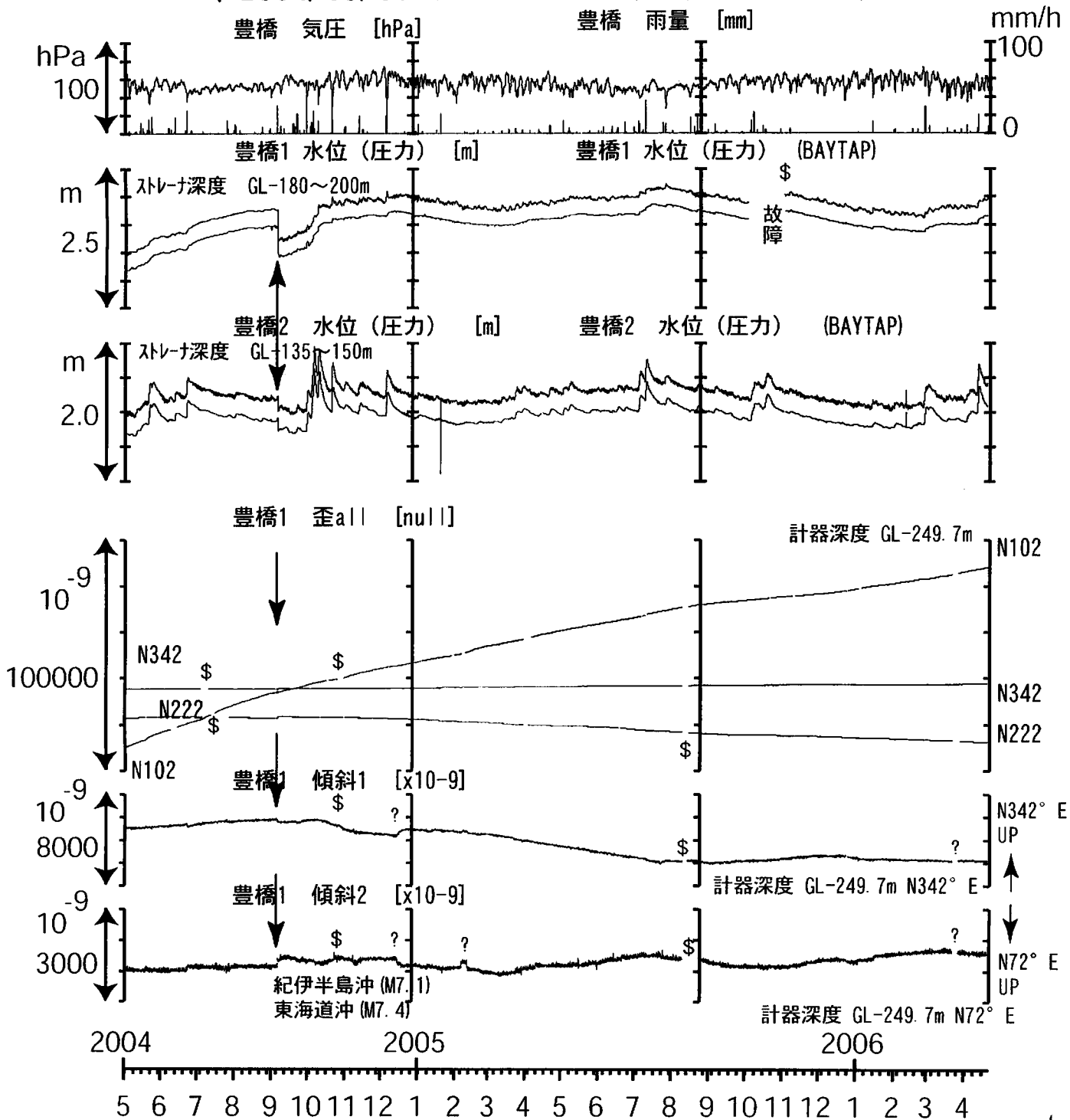
2.5E-8 / 1 day  
 伸び 縮み  
 ←→ ⇐⇒



コメント：  
 N356, N131, N221の3成分による主歪解析結果を示す



# 東海地域西部（豊橋）長期（時間値） （2004/05/01 00:00 - 2006/04/22 00:00）



コメント：\$：保守。？：原因不明。

トンネル工事（2003年6月末～2004年7月）が原因と考えられるN102方向の急激な伸びで、歪計近傍で微小破壊が生じることによる変化と推定できるステップは除去済みである。

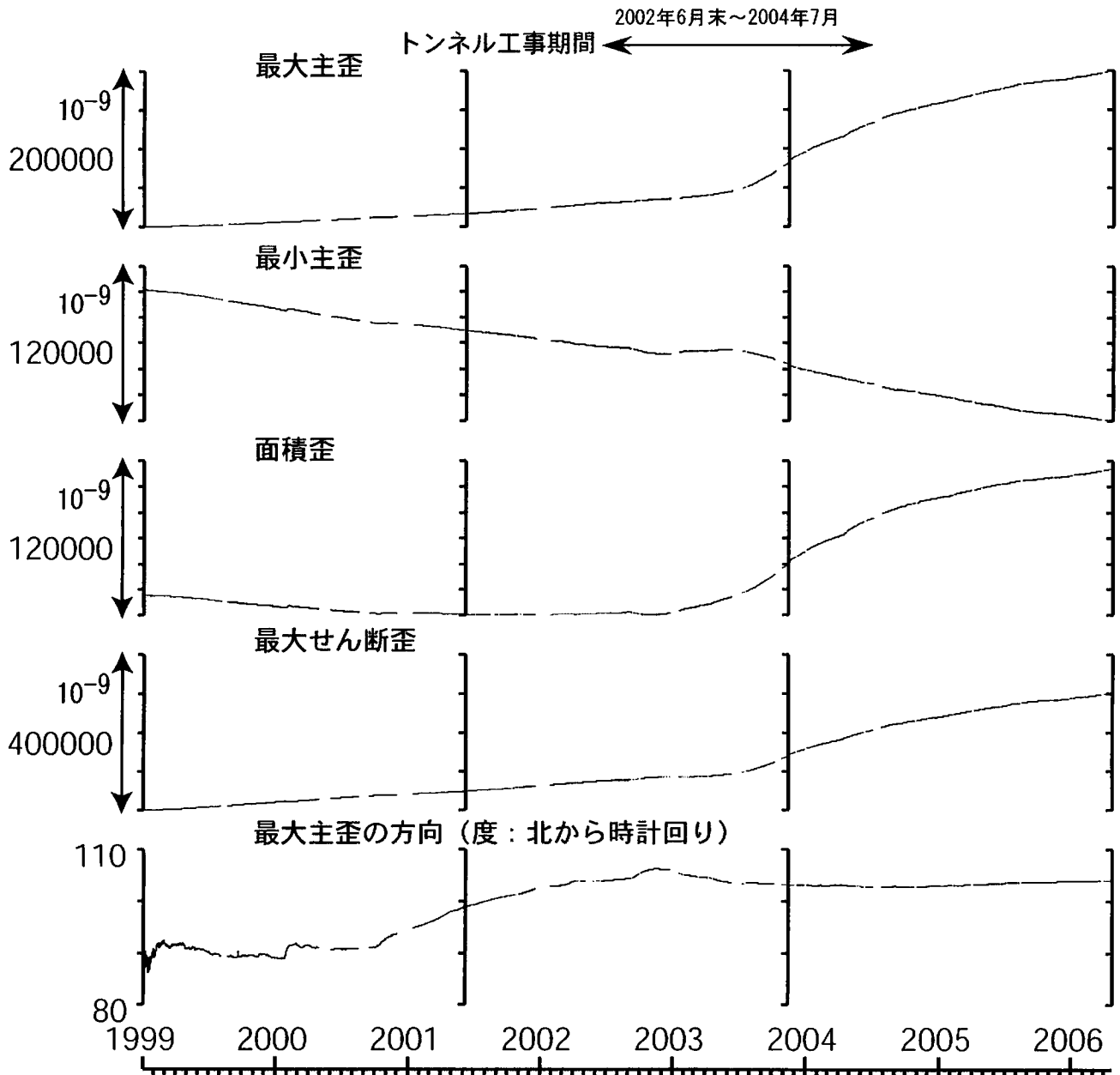
歪1（N102）の上昇が、2003年4月頃から加速し、2004年9月頃から減速した。

紀伊半島南東沖の地震（2004年9月5日）の後、豊橋1の水位に潮汐変化が再び認められるようになった。



# 豊橋1:主歪解析

( 1999/01/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



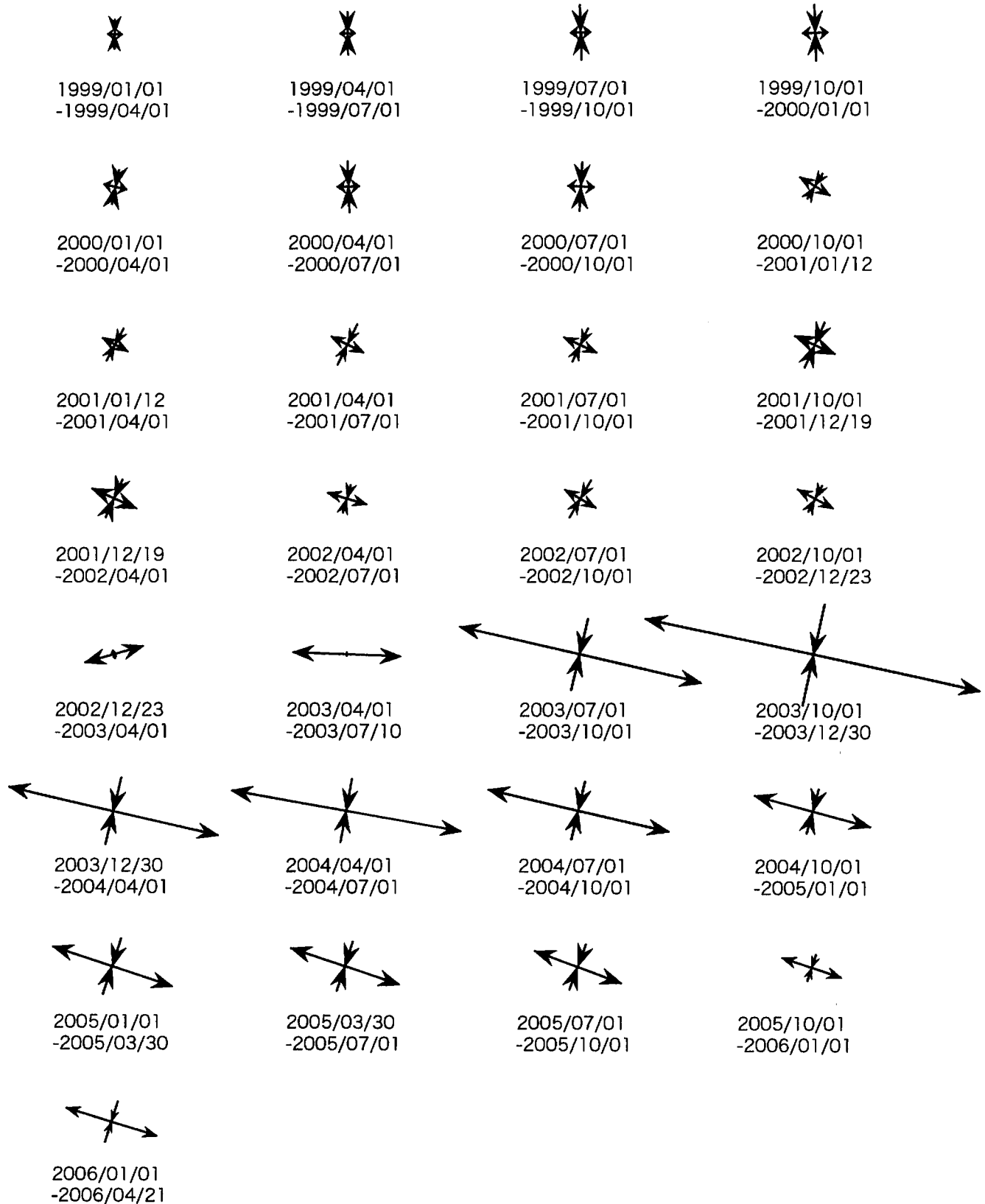
コメント：  
 ステップ状の変化を除去した上で、解析を行った。  
 主歪解析の起点は1999年1月1日  
 2002年6月末～2004年7月の期間、  
 観測点の西方200mでトンネル工事があった。  
 主に、2002年9月初めからの歪 2 (N222) の変化と  
 2003年4月頃からの歪 1 (N102) の上昇加速と  
 2004年9月頃からの減速により、  
 解析結果に影響が出ている。



5.0E-8/1day

伸び 縮み  


# 豊橋1:主歪の時間変化



コメント：

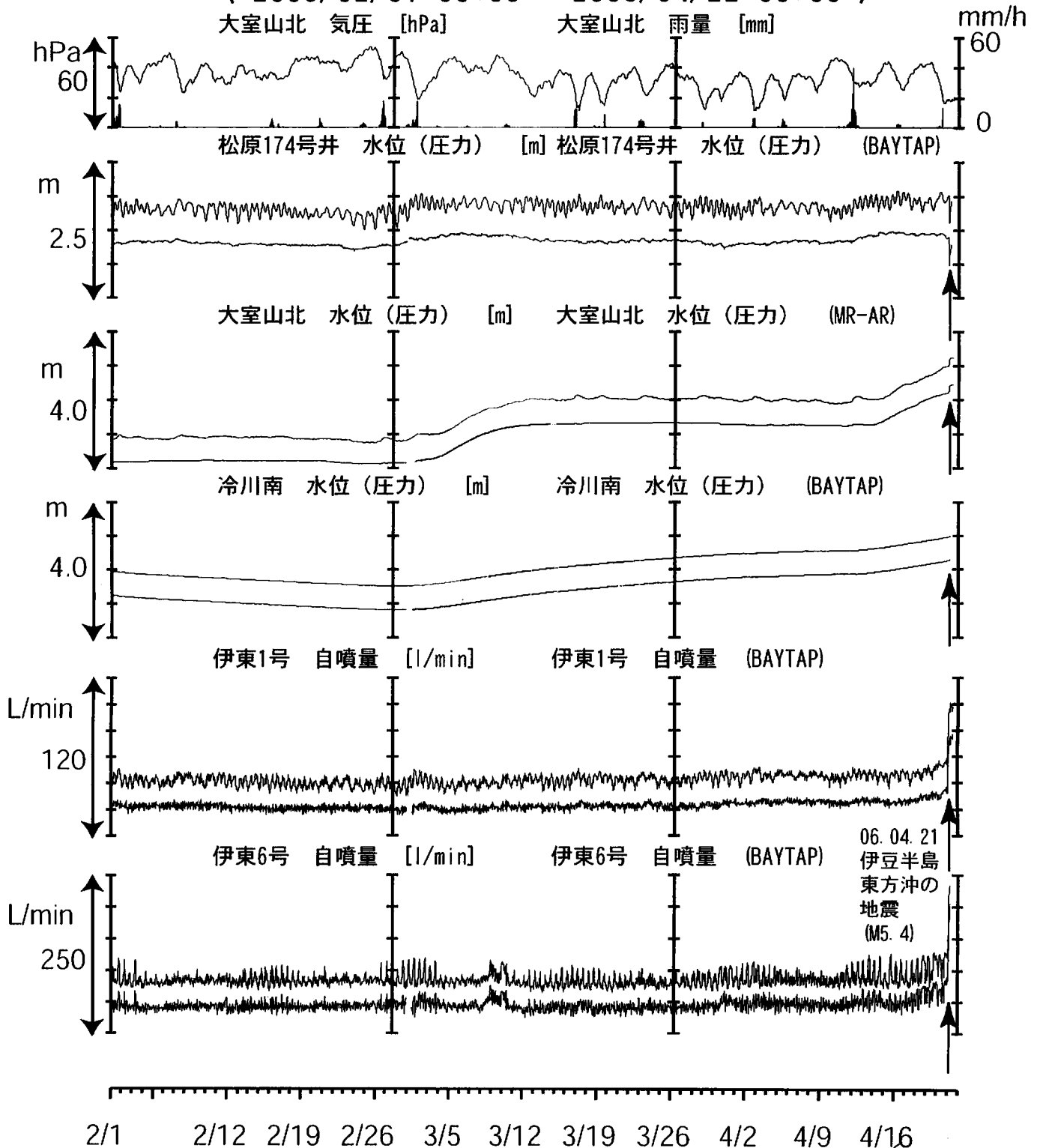
ステップ状の変化を除去した上で、解析を行った。

2002年6月末～2004年7月の期間、観測点の西方200mでトンネル工事があった。

主に、2002年9月初めからの歪2 (N222)の変化と2003年4月頃からの歪1 (N102)の上昇加速と2004年9月頃からの減速により、解析結果に影響が出ている。

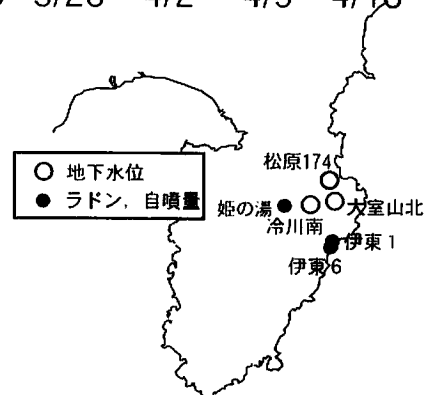
# 伊豆半島東部 地下水位・自噴量 中期 (時間値)

( 2006/02/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



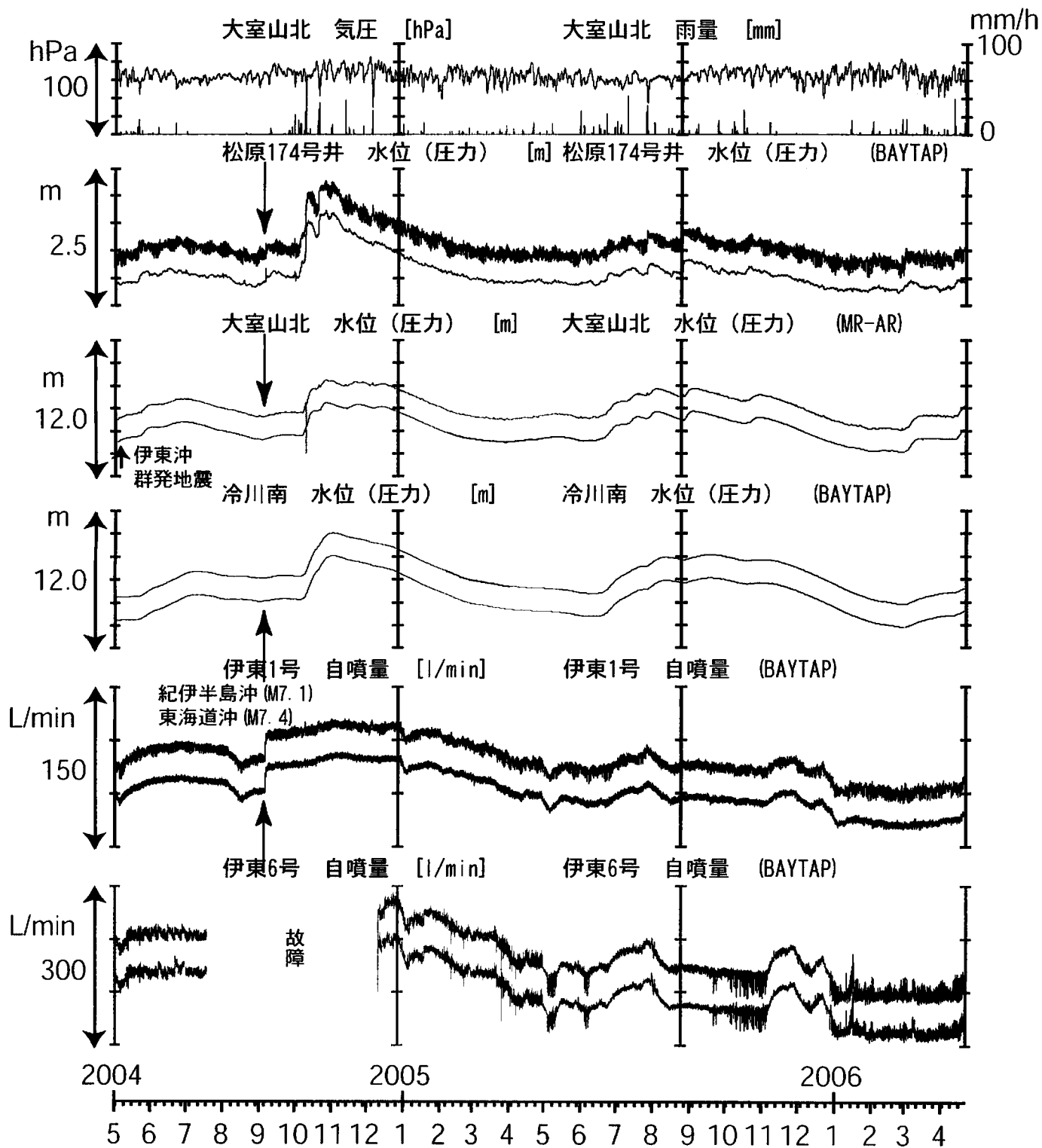
コメント :

松原174号井は静岡県による観測。  
 伊東6は、自噴量の値が一定以下になると、  
 配管の問題で自噴量が不安定になる。

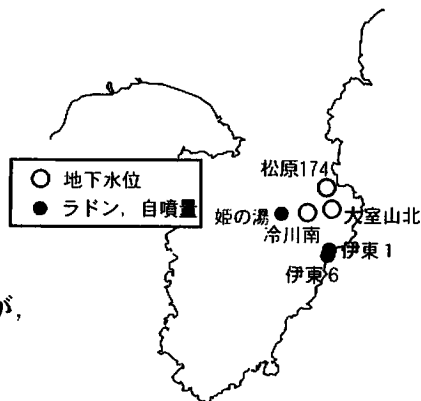


# 伊豆半島東部 地下水位・自噴量 長期 (時間値)

( 2004/05/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )

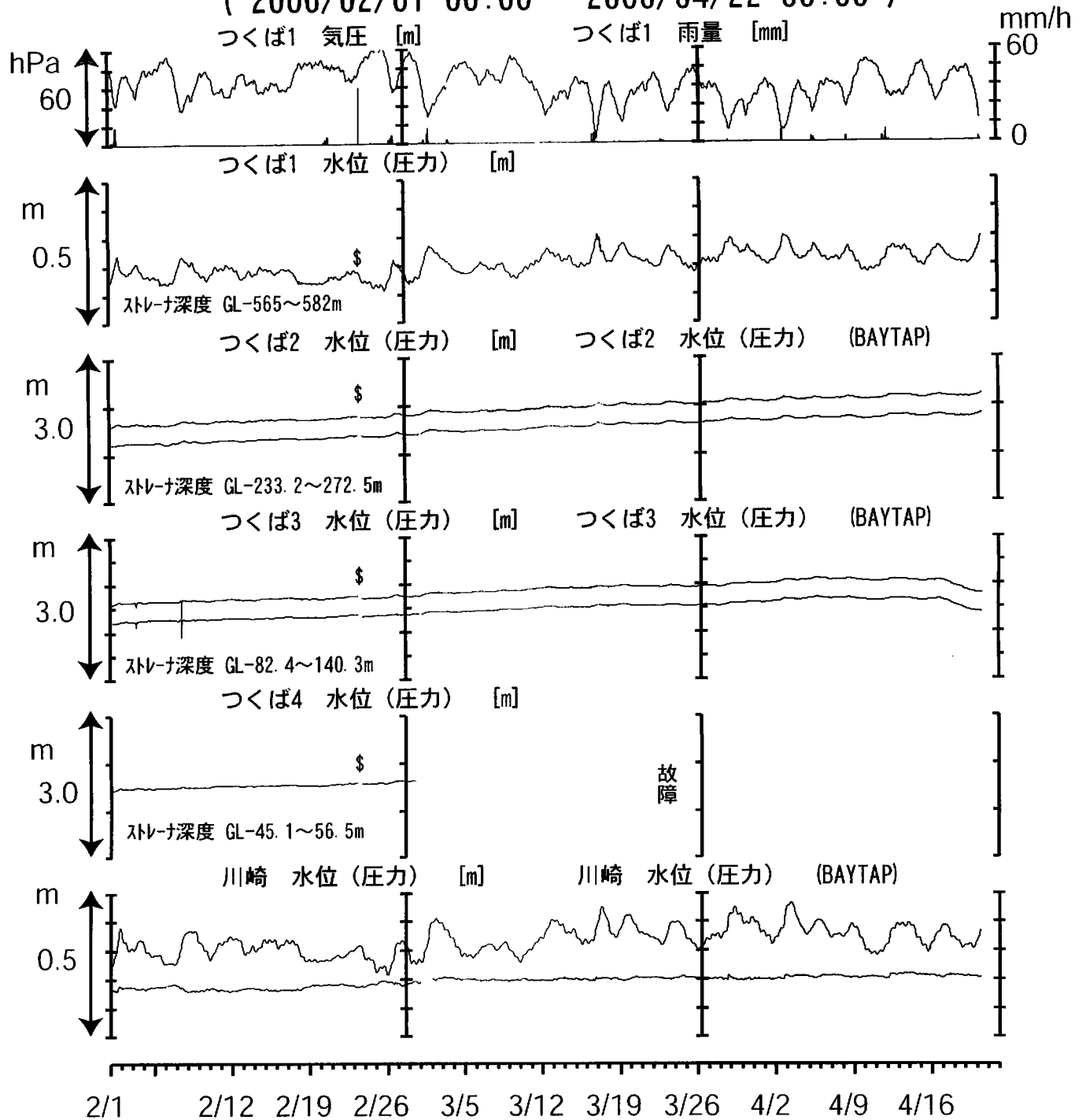


コメント：松原174号井は静岡県による観測。  
 伊東1・6は、休日・年末年始に周囲の温泉使用量が増加するため、自噴量が減少する。  
 伊東6のばらつきは配管の問題によると思われる。  
 伊東6は2004年7月中旬～12月10日の期間、流量計への配管が破損していて欠測になっていた。  
 伊東1・6の自噴量が2005年8月頃から低下していた。  
 11月～12月にも変化している。原因はよく分からないが、周囲の揚湯量に変化した可能性がある。



# 関東地域 地下水観測結果 中期 (時間値)

( 2006/02/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )

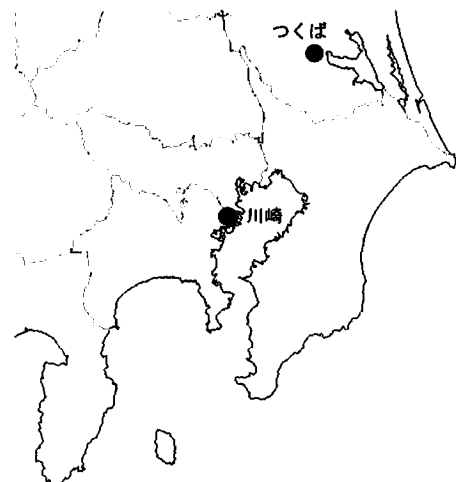


コメント：\$;保守.

データロガー故障のため、つくば1の  
気圧・雨量・水位が2005年12月末～  
2006年1月初めまで欠測となった。

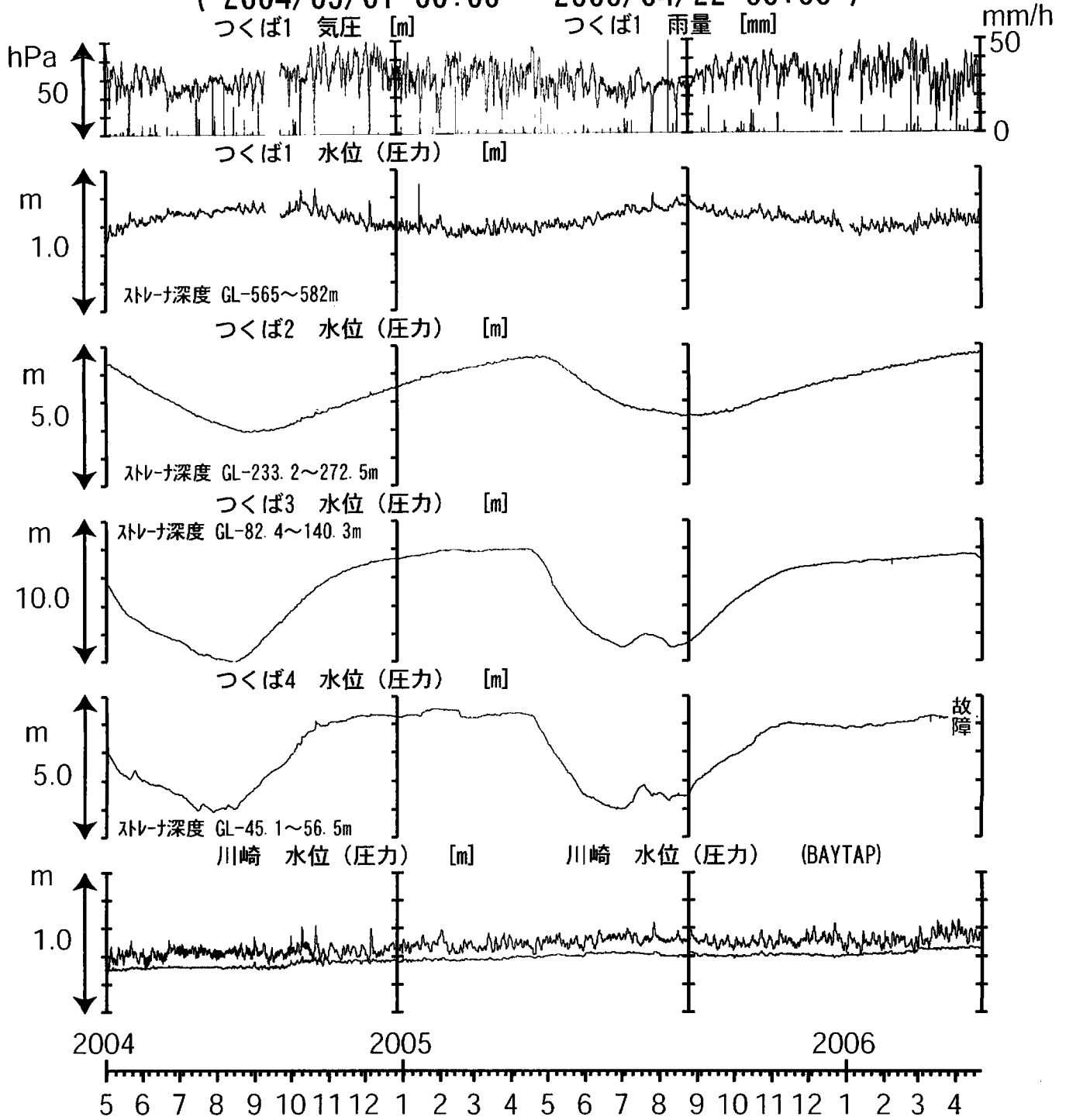
気圧が欠測なのでつくば2～4のBAYTAP補正值も  
同期間計算できていない。

2006年4月16日頃からつくば3の水位が低下し始め  
ている。このような低下は例年認められるもので、  
周囲の揚水が原因と考えられる。



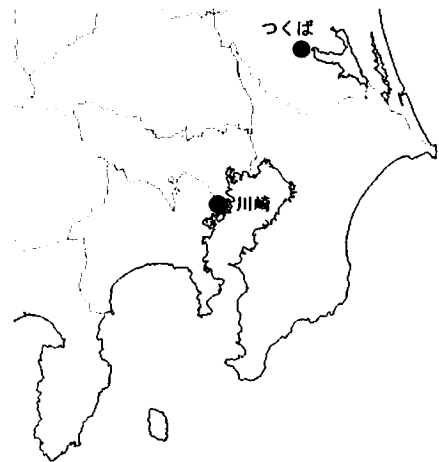
# 関東地域 地下水観測結果 中期 (時間値)

( 2004/05/01 00:00 - 2006/04/22 00:00 )



コメント :

つくば2~4の水位が、例年春~夏に低下するのは、周囲の揚水によると考えられる。



# 伊豆半島東方沖地震活動に伴う伊東市周辺の地下水変化

産業技術総合研究所地質調査総合センター

2006年4月17日8時頃から、伊豆半島東方沖で群発地震が発生した。大室山北観測井戸（図1）では、4月11日頃からの降雨で、水位が長期上昇傾向にある（降雨後の数日間で水位が上下し、その後長期的に水位が上昇するというのは、大室山北における降雨レスポンスの通常のパターンである。（資料7）。ただ、上記の群発地震発生前後に、長期上昇のトレンドが少し小さくなってその後戻ったようにも見える（図2）。群発地震に対してあまり変化を示さないが、降雨レスポンスは大室山北と同様の冷川南観測井戸では、そのような長期上昇傾向の揺らぎは認められない。

- ・大室山北は、1994年10月の観測開始以来、群発地震前に水位の低下を何度も検出しており、群発地震の原因であるダイクの貫入による地殻変動（体積歪増加）を、ダイクが群発地震を引き起こす前に検出していると考えたと説明できる。ダイクの位置が過去と同様であれば、ダイクの上昇とともに地震活動は活発化し、大室山北は体積歪伸張から圧縮の領域にかわり、水位の上昇に転じる

- ・4月17日以降の変化では、4月21日午前2時50分のM5.4の地震までは、4月11日の降雨による水位の長期上昇傾向を超えての水位上昇は認められない（図2）。このM5.4の地震の際に、下記の観測点で顕著な地震時の変化が認められた。大室山北・伊東1・冷川南が上昇、松原174・江戸屋が下降である（図3）。伊東1と冷川南については、過去の変化から体積歪変化とは無関係の変化と考えられる。したがって、大室山北と松原174・江戸屋（右下の地図上ではほぼ同じ場所）の間に、上記M5.4の地震のコサイスミックな体積歪変化に関するノーダルラインが来る可能性がある（図4）。

- ・M5.4の地震の前に、大室山北の直前の降雨にも係らず、水位上昇が停滞しているようにも見えるが（図2）、4月11日の大雨による水位長期上昇傾向が衰えてきただけの可能性もあり、現時点では客観的な判定は難しい。

- ・図5-7に2006年1～月の群発地震時の地下水変化を示す。また、表1に大室山北観測井戸の変化についてまとめた。

表 1

番号	開始	終了	大室山北の 水位低下	水位低下量	換算体積歪 ppm	備考
2006-1	2006/1/25	2006/1/31	○	10cm		0.3
2006-2	2006/2/21	2006/3/2	△	-		水位の長期低下傾向次期
2006-3	2006/3/30	2006/4/10	○	4cm		0.1
2006-4	2006/4/17	-	△	-		M5.4のコサイスミック水位変化=27cm

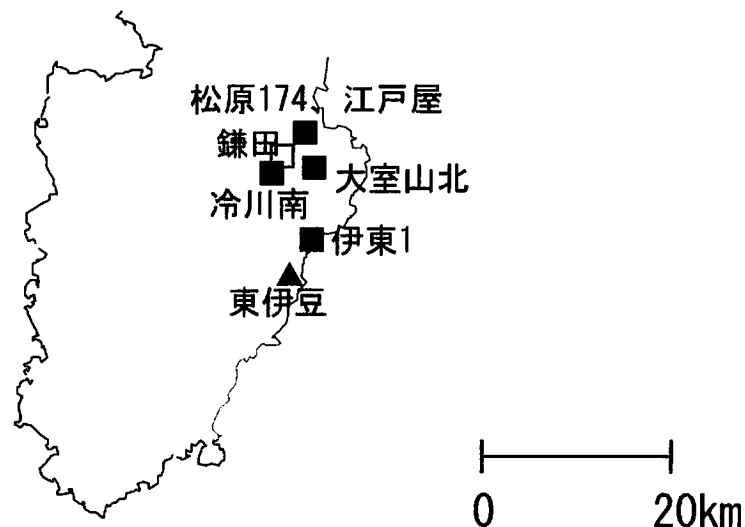


図 1 : 観測点位置



# 大室山北・冷川南 (時間値)

( 2006/04/13 00:00 - 2006/04/24 12:00 )

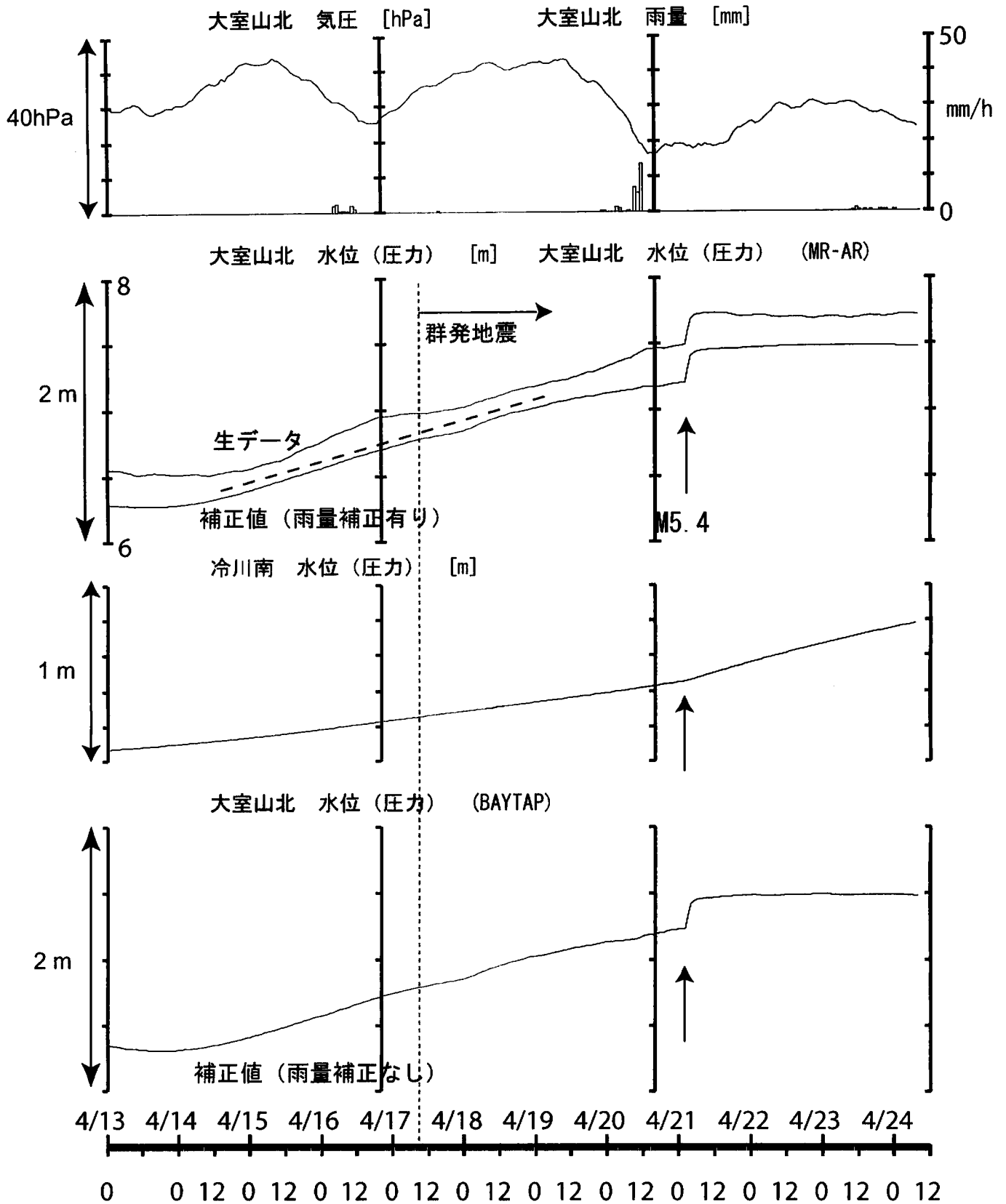


図 2

大室山北・冷川南・赤沢1・松原174・江戸屋  
 ( 2006/04/13 00:00 - 2006/04/22 00:00 )

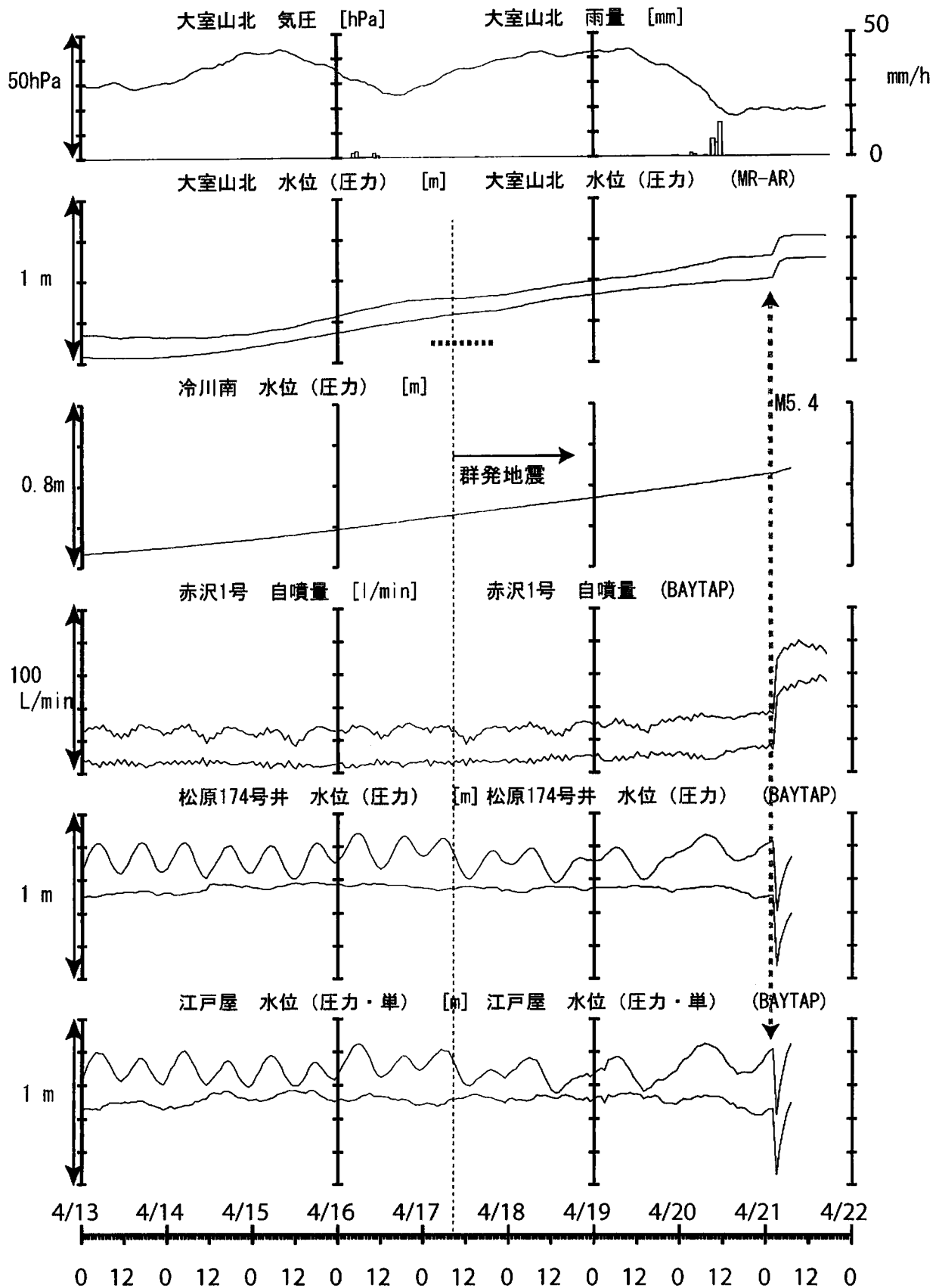


図3 2006年4月の群発地震の際の水位変化(4/22まで)

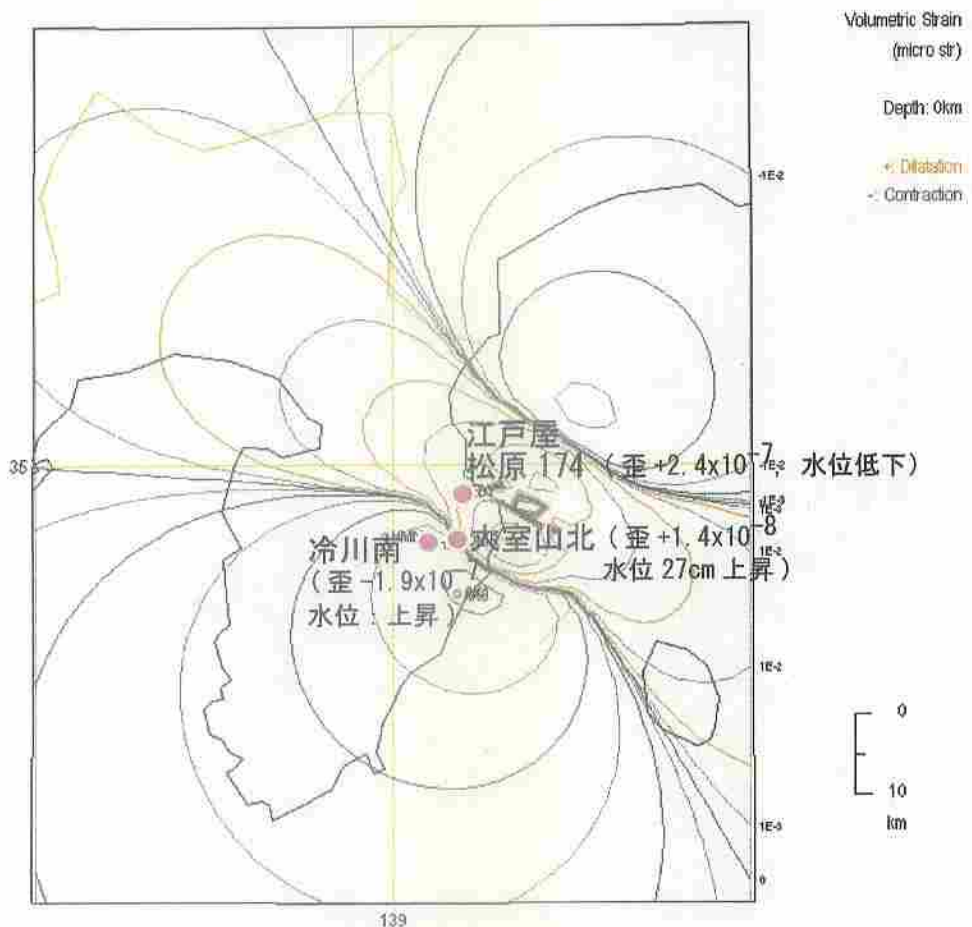


図4 国土地理院発表の断層メカニズムにより計算した体積歪場と実際の水位変化との比較

大室山北観測井で M5.4 の地震後に 27 cm の水位上昇を観測した。これは水位の歪感度 ( $10^{-8}$  あたり 3mm) を用いると  $-9 \times 10^{-7}$  (縮み) に相当する。断層モデルから計算した体積歪 ( $+1.4 \times 10^{-8}$ : 伸び) とはセンスが合わない。断層がもう少し北-北東にずれるか、浅くなるか、strike が小さくなれば、大室山北観測井の観測値と矛盾がなくなる。

# 大室山北・冷川南・赤沢1・松原174・江戸屋 ( 2006/01/21 00:00 - 2006/01/30 00:00 )

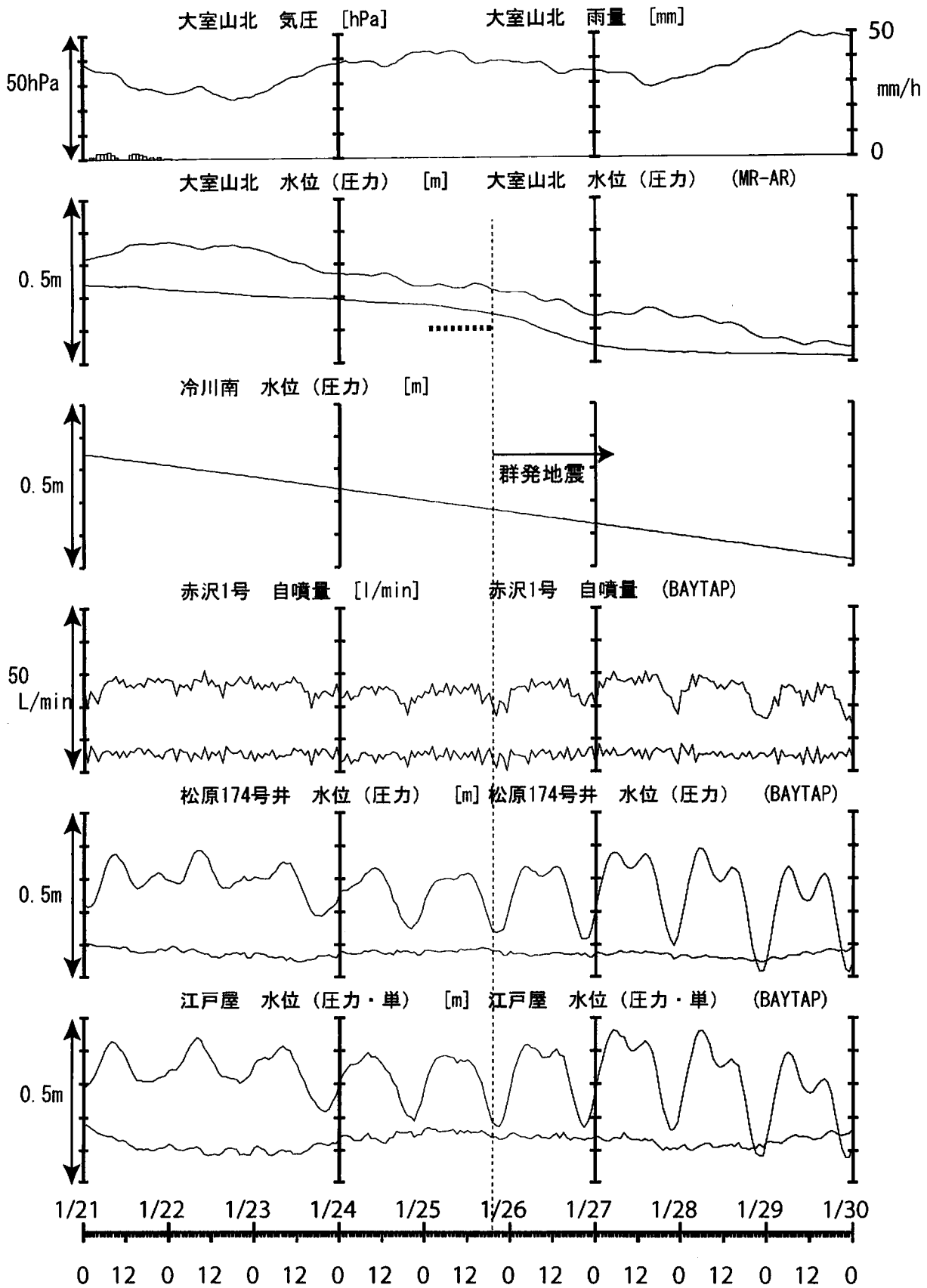


図5 2006年1月の群発地震の際の水位変化

大室山北・冷川南・赤沢1・松原174・江戸屋  
 ( 2006/02/19 00:00 - 2006/03/03 00:00 )

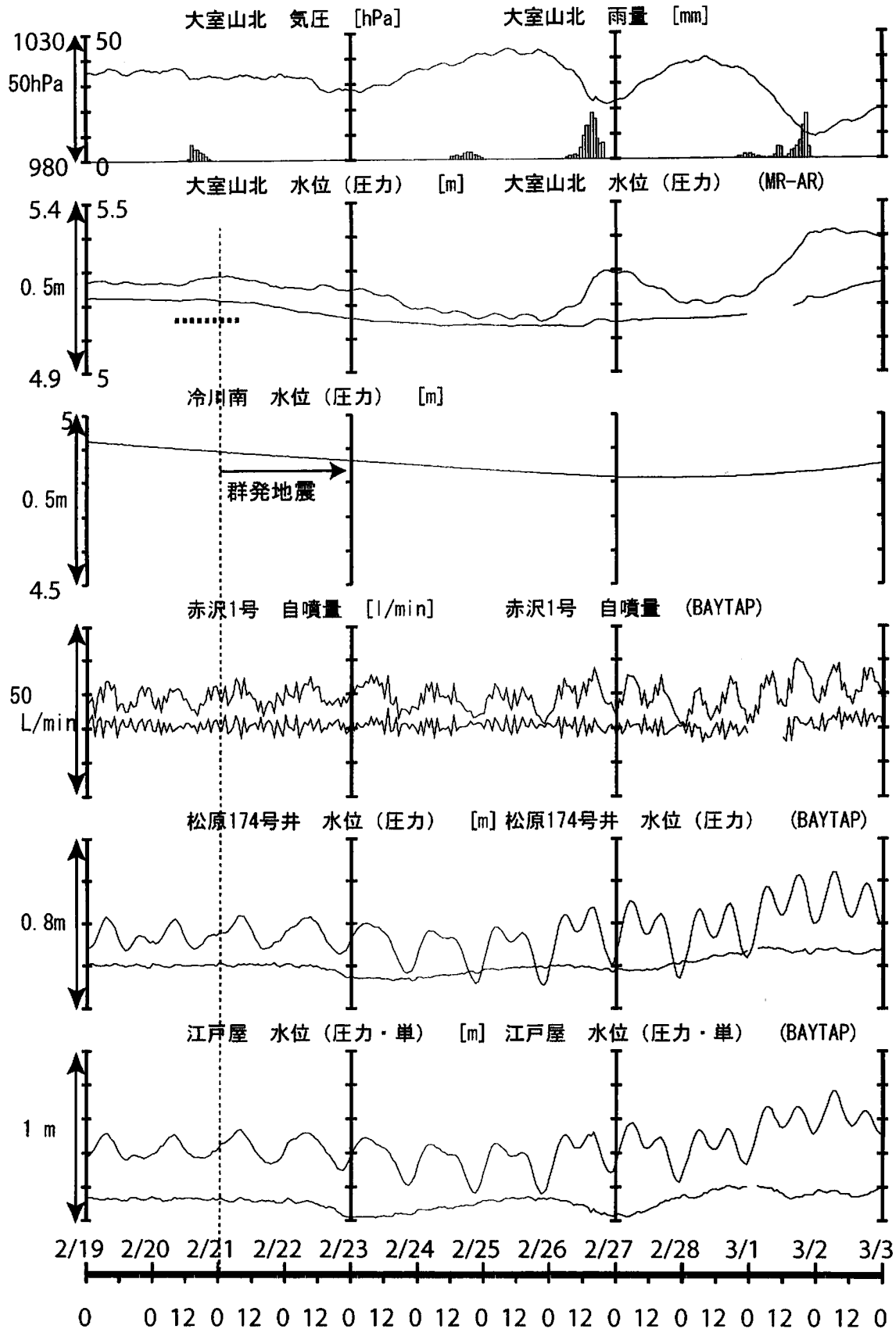


図6 2006年2月の群発地震の際の水位変化

大室山北・冷川南・赤沢1・松原174・江戸屋  
 ( 2006/03/28 00:00 - 2006/04/09 00:00 )

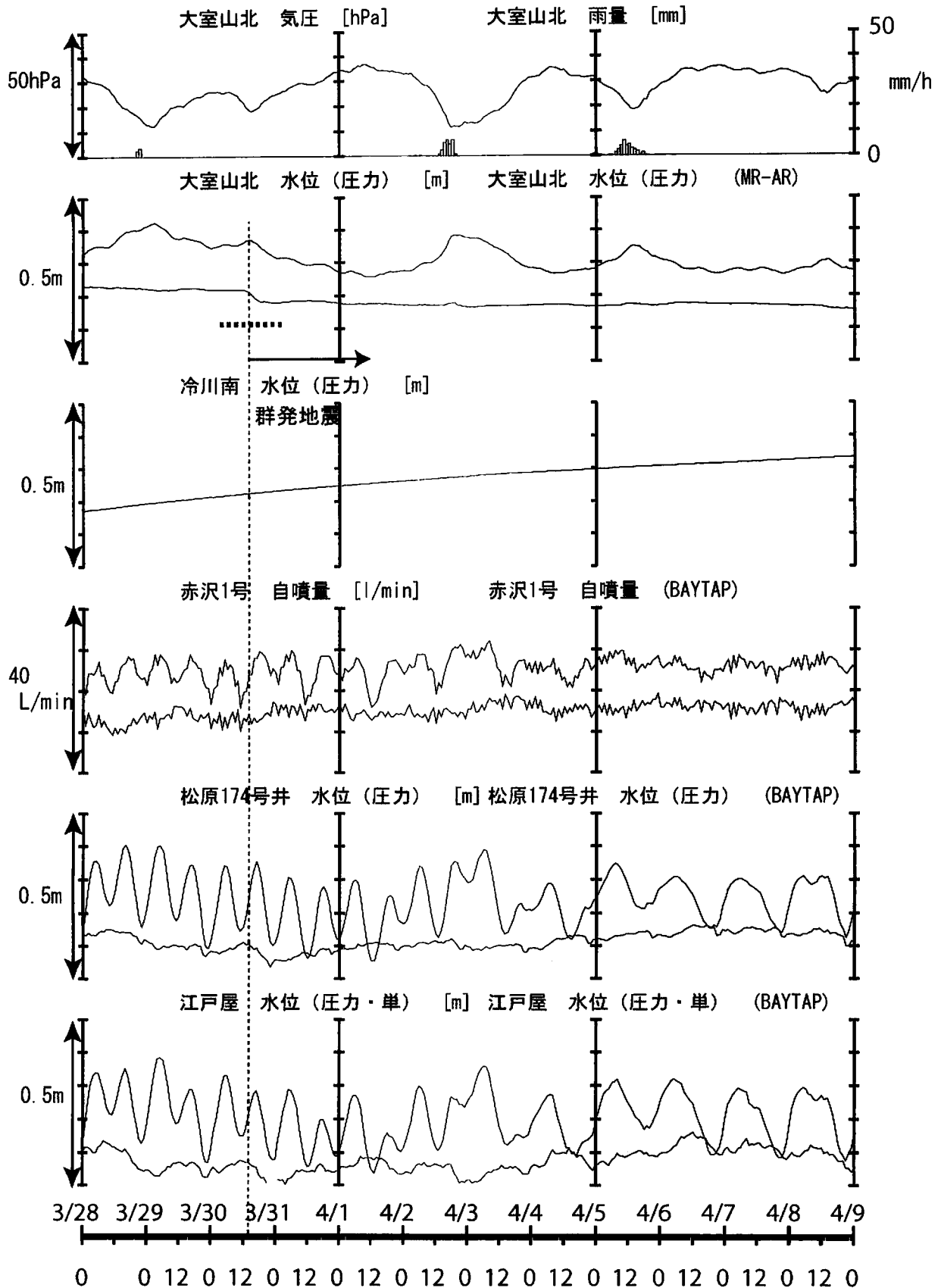
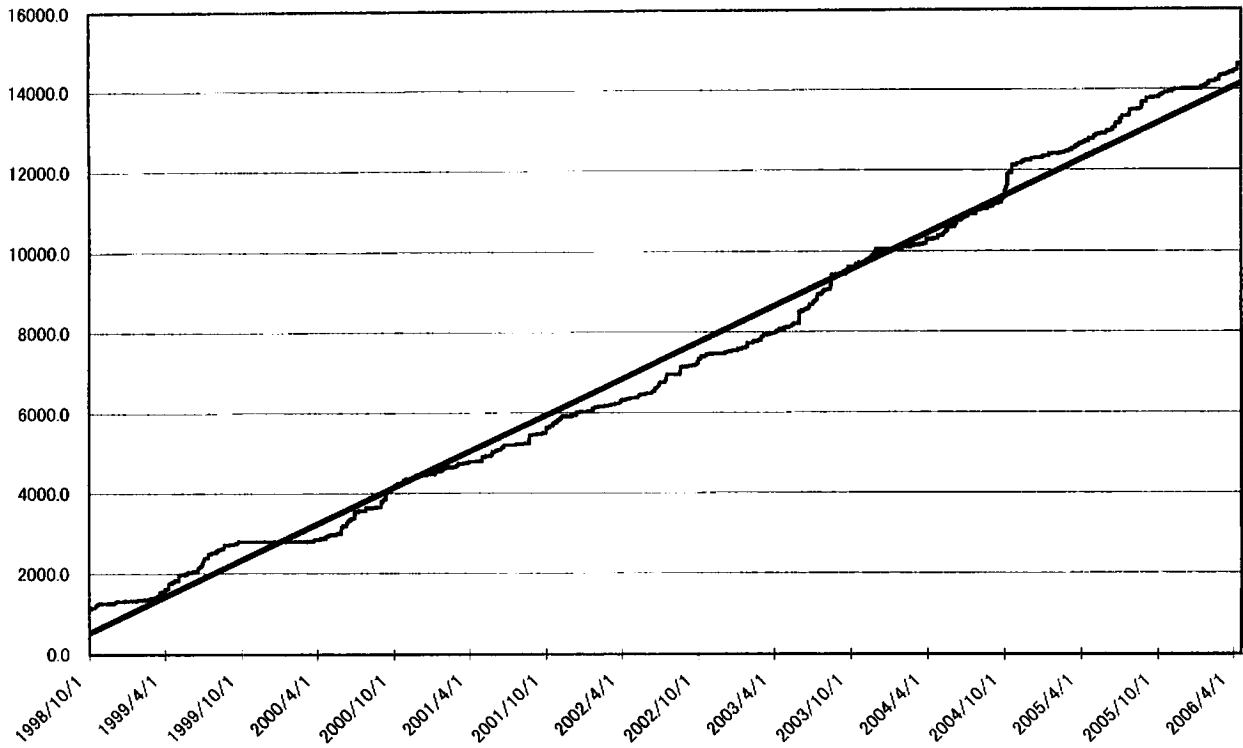
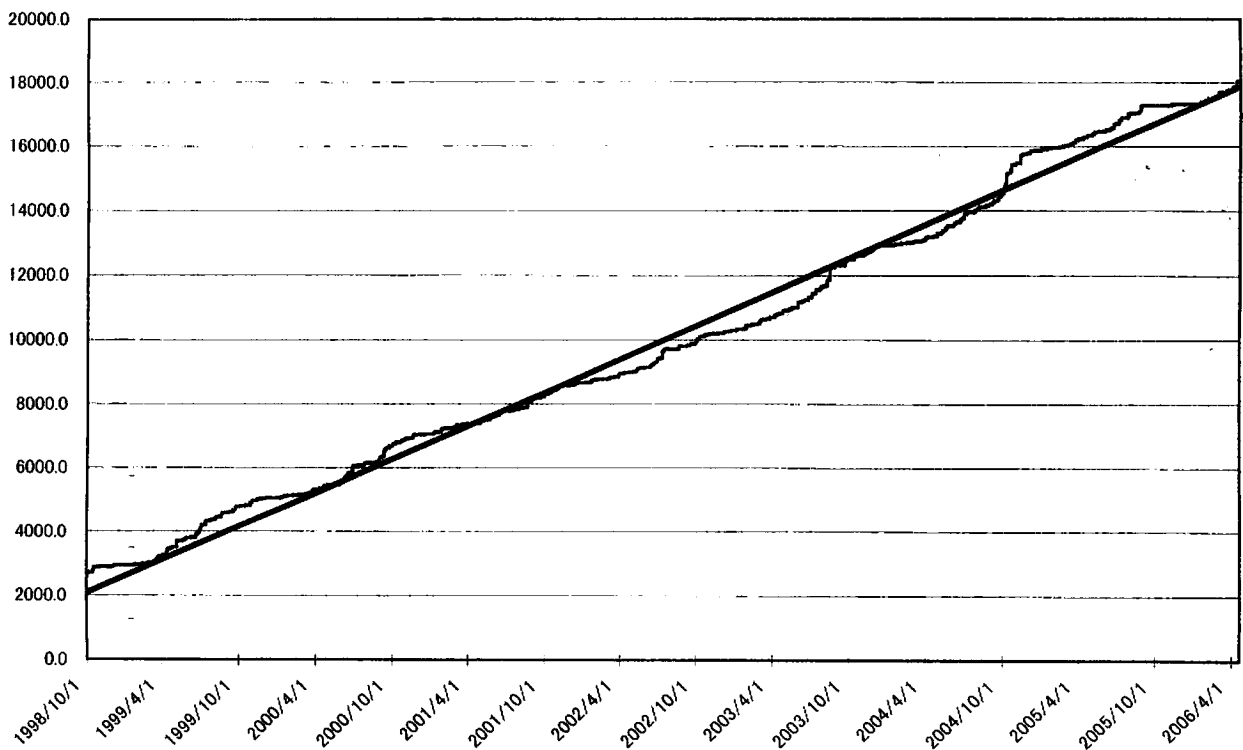


図7 2006年3月の群発地震の際の水位変化

浜岡の降雨量の積算グラフ (1998.10.1-2006.4.19) (mm)

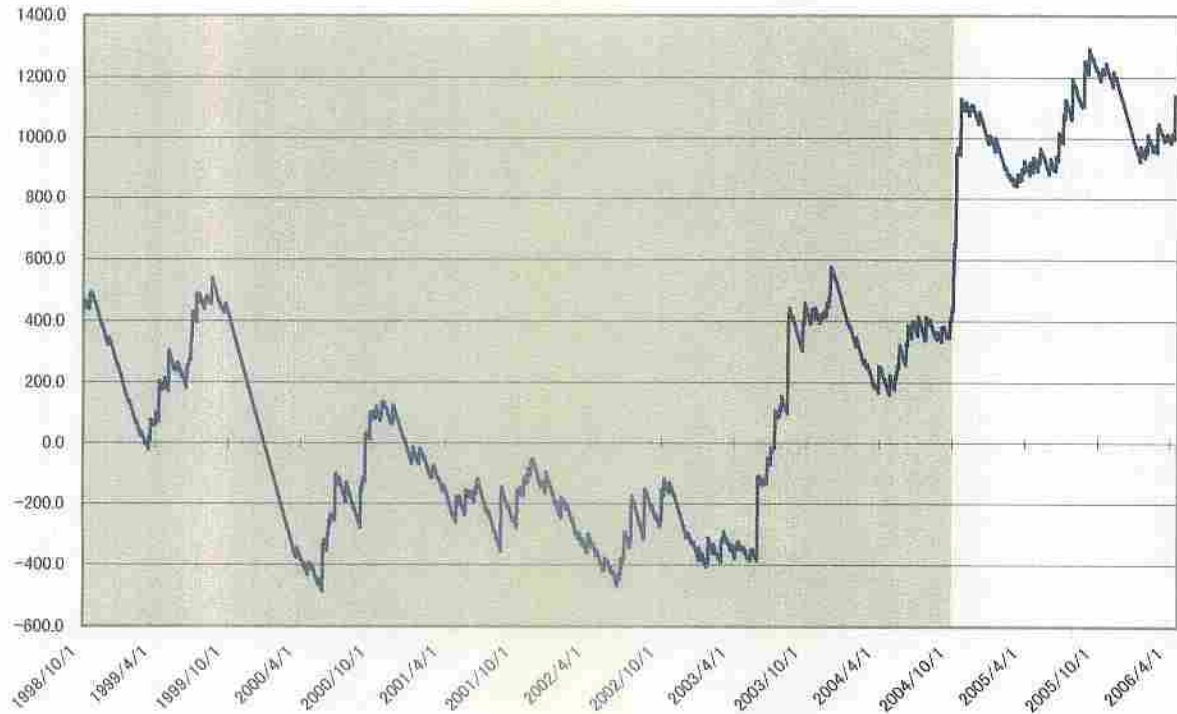


榛原の降雨量の積算グラフ (1998.10.1-2006.4.19) (mm)



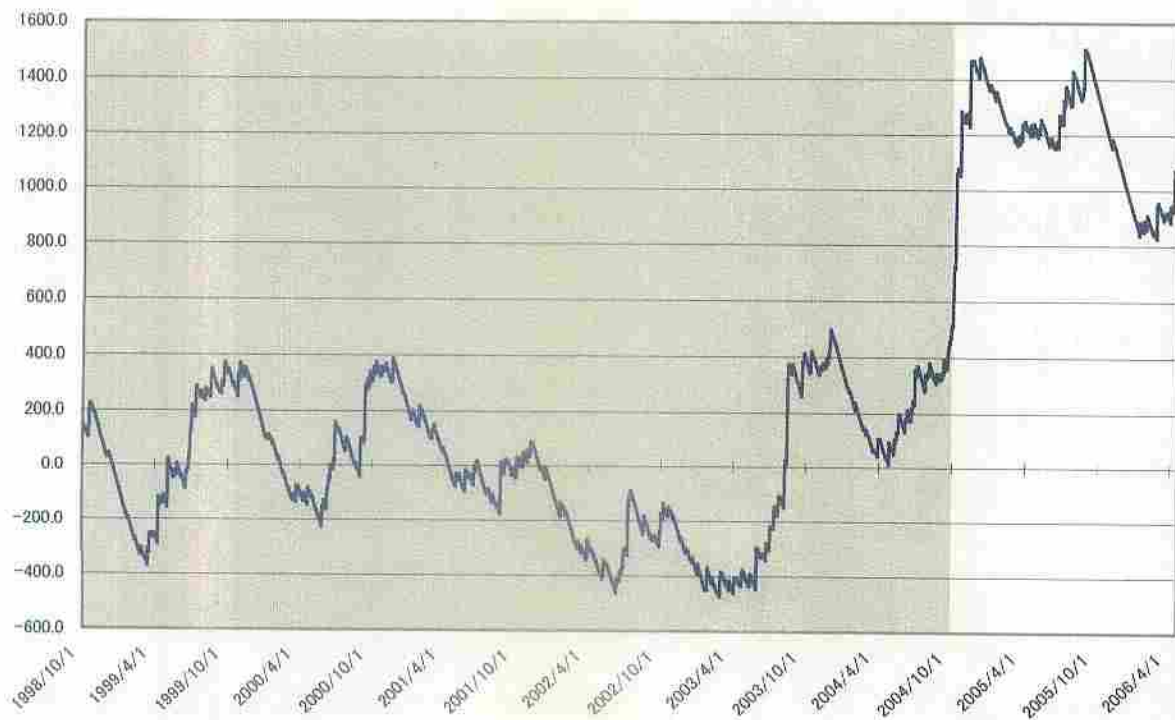
浜岡観測井 降雨量の積算からトレンド除去後のグラフ (mm)  
(1998. 10. 1-2006. 4. 19)

※トレンドは1998. 10. 1~2004. 10. 1の期間(影部分)のデータを用いて定めた



榛原観測井 降雨量の積算からトレンド除去後のグラフ (mm)  
(1998. 10. 1-2006. 4. 19)

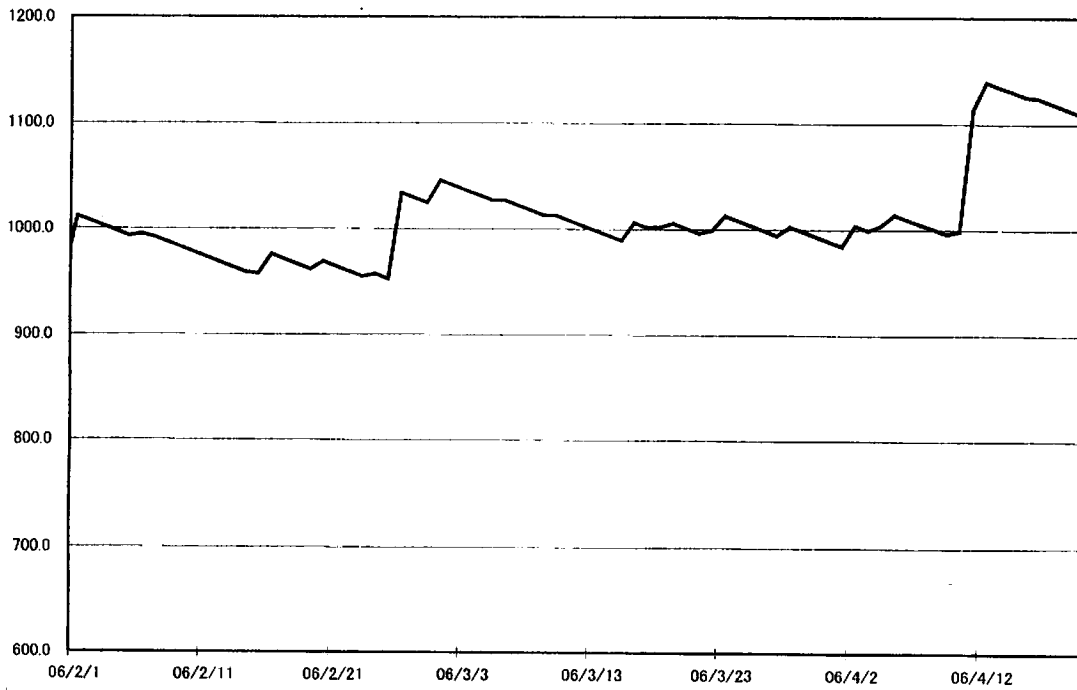
※トレンドは1998. 10. 1~2004. 10. 1の期間(影部分)のデータを用いて定めた





浜岡観測井 降雨量の積算からトレンド除去後のグラフ (mm)  
(2006. 2. 1-2006. 4. 19)

※トレンドは1998. 10. 1~2004. 10. 1の期間)のデータを用いて定めた



榛原観測井 降雨量の積算からトレンド除去後のグラフ (mm)  
(2006. 2. 1-2006. 4. 19)

※トレンドは1998. 10. 1~2004. 10. 1の期間)のデータを用いて定めた

